

---

# OPTiM

## Optimal Biz SaaS ID・アクセス制御 運用マニュアル

最終更新日 2024年7月15日  
(Web サイト ver.9.21.0)  
株式会社オプティム

---

# はじめに

## 注意

- SaaS ID のオプションサービスは、2022年6月30日をもって終了しました。  
後継のサービスは「OPTiM ID+」になります。詳細については以下を参照してください。

 <https://www.optim.co.jp/optim-id-plus/>

本マニュアルでは、Optimal Biz（以下、本製品と呼ぶ）の操作ほか、各機能の概要、画面の説明、設定操作について説明しています。

また、要点となる各種の内容を以下に記載しています。これらの内容をご理解の上、マニュアルをお読みください。



## 名称・呼称

本マニュアルに登場する特定の企業、人について、以下の定義で記載しています。

名称	説明
サービス企業	本製品を提供する企業。
管理者	本製品の管理サイト（機器の管理・運用を行う Web サイト）を運用する者。
端末使用者	本製品で管理している端末を使用する者。
システム管理者	企業の社内システム（サーバー・インフラなど）を管理する者。

## 注意・ポイントマーク

操作を行う場合に注意する点や、操作のポイントとなる点を示す場合は、以下のマークで記載しています。

マーク	説明
	データの破損や消失など、特に注意していただきたい内容を記載しています。
	操作のポイントや知っておくと便利な内容を記載しています。




## 記号

画面に表示されるボタンやメニュー、キーボードのキーなどを示す場合は、以下の記号で記載しています。

マーク	説明
[ ]	ボタン、メニュー、タブ、リンク、チェックボックス、ラジオボタンなどの名称を示しています。
	画面名、機能名、項目名、マニュアル内の参照先などを示しています。
『 』	マニュアルや資料などの名称を示しています。
< >	キーボードなどのハードキー名称（スペースキーは〈スペース〉と表記）を示しています。

## 参照マーク

他のマニュアルや他のページへなどの参照を示す場合は、以下のマークで記載しています。


マーク	説明
	他のページや Web サイトへの参照を示しています。クリックすると該当箇所にジャンプします。
	セクション内の画面への参照を示しています。クリックすると該当の画面にジャンプします。
	他のマニュアルや資料への参照を示しています。

---

## 用語集

---

不明な用語については、『よくあるご質問 (FAQ)』を参照してください。

 <https://support.optim.co.jp/opproduct/Biz3/web/knowledgeList.html?keyword=%E7%94%A8%E8%AA%9E%E9%9B%86%E4%B8%80%E8%A6%A7&searchMethod=0&searchCondition=0&searchCategory=1&searchItem=1&searchTag=1>

## 免責事項

---

- 本マニュアルは、ユーザー種別が [管理者] のユーザーを対象としています。[管理者] 以外のユーザー種別でログインした場合は、操作が制限されます。
- iPad OS の操作は iOS と同様です。差異がある場合は iPad OS 用の記載をしています。
- 画面上のバージョン表記は、実際の表示と異なる場合があります。
- 本マニュアルに記載されている Web サイトの URL は、予告なく変更される場合があります。
- OS のバージョンやブラウザにより、一部の画面や操作が異なる場合があります。本マニュアルでは、Google Chrome を例に説明しています。

## 登録商標

---

- Apple、iPad、iPadOS、iPhone、Mac、macOS は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc.の商標です。
- iOS は、Apple Inc.の OS 名称です。  
IOS は、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- App Store は、Apple Inc.のサービスマークです。
- Android、Google Chrome、Google Cloud、Google マップ、Google Play、Google Workspace は、Google LLC の商標です。
- Microsoft、Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他記載の会社名、製品名は、各社の登録商標および商標です。

# 目次

<b>1 SaaS ID 連携</b> .....	<b>5</b>
1.1 SaaS ID 連携について.....	6
1.2 SaaS ID 連携の事前準備 .....	6
1.3 Office 365 の SaaS ID 連携導入手順 .....	7
1.3.1 アプリの登録を行う (Microsoft Azure) .....	8
1.3.2 SaaS ID 連携の設定を行う (管理サイト) .....	13
1.3.3 コマンドを実施する (Microsoft Azure Module) .....	17
1.3.4 ユーザーを登録する (管理サイト) .....	23
1.3.5 アクセス制御を設定する (管理サイト) .....	26
1.3.6 機器をユーザーに紐づけする (管理サイト) .....	27
1.4 Google Workspace の SaaS ID 連携導入手順 .....	29
1.4.1 SaaS ID 連携の設定を行う (管理サイト) .....	30
1.4.2 シングルサインオンを設定する (Google 管理コンソール).....	32
1.4.3 認証情報を作成する (Google APIs).....	34
1.4.4 サービスアカウントへ権限を付与する (Google 管理コンソール) .....	40
1.4.5 プロビジョニングの設定を行う (管理サイト) .....	42
1.4.6 ユーザーを登録する (管理サイト) .....	44
1.4.7 アクセス制御を設定する (管理サイト) .....	47
1.4.8 機器をユーザーに紐づけする (管理サイト) .....	48
1.4.9 ユーザー種別を確認・変更する (Google 管理コンソール) .....	50
1.5 ログイン方法 .....	53
1.5.1 Office 365 にログインする .....	53
1.5.1.1 Android の場合.....	53
1.5.1.2 iOS の場合 .....	55
1.5.1.3 Windows の場合 .....	58
1.5.2 Google Workspace にログインする .....	61
1.5.2.1 Android の場合.....	61
1.5.2.2 iOS の場合 .....	63
1.5.2.3 Windows の場合 .....	66
1.5.2.4 初回ログインの場合 .....	69
<b>2 付録</b> .....	<b>70</b>
2.1 参考リンク集 .....	71
2.1.1 Office 365 .....	71
2.1.2 Google Workspace.....	71
2.2 注意事項 .....	71

---

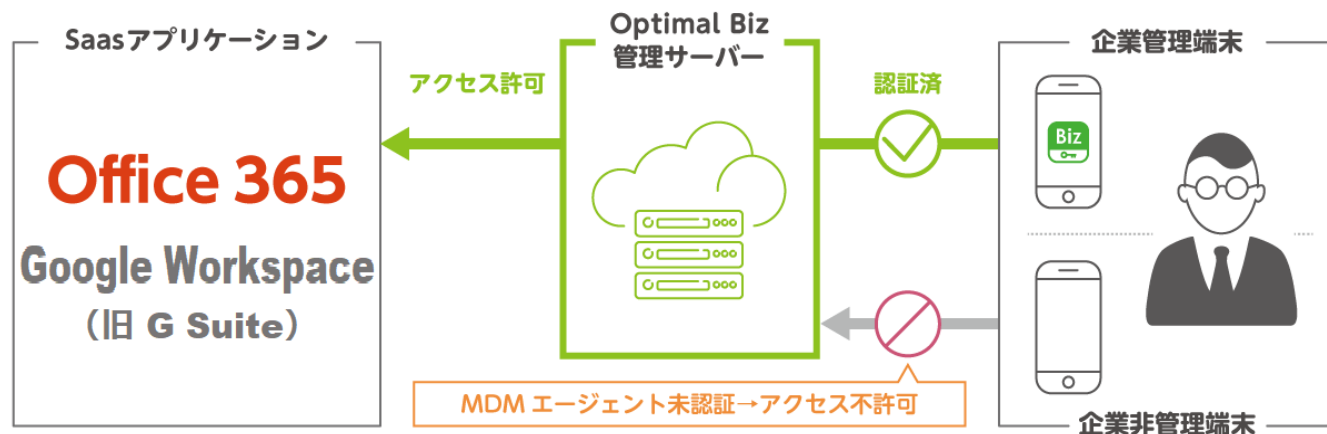
# 1 SaaS ID 連携

以下の項目について説明しています。

項目	ページ
<a href="#">SaaS ID 連携について</a>	<a href="#">6</a>
<a href="#">SaaS ID 連携の事前準備</a>	<a href="#">6</a>
<a href="#">Office 365 の SaaS ID 連携導入手順</a>	<a href="#">7</a>
<a href="#">Google Workspace の SaaS ID 連携導入手順</a>	<a href="#">29</a>
<a href="#">ログイン方法</a>	<a href="#">53</a>

## 1.1 SaaS ID 連携について

Optimal Biz の ID で SaaS アプリケーション（Office 365 または Google Workspace）へのシングルサインオン（SSO）連携を行います。また、アクセス制御機能を併用することでエージェント未認証の端末からのログインを防ぎ、セキュアな SaaS アプリケーション利用環境を構築できます。



※アクセス制御を利用した SaaS アプリケーション連携イメージ

## 1.2 SaaS ID 連携の事前準備

ご利用には以下の準備が必要になります。


- SaaS ID 連携のご利用には、SaaS アプリケーション（Office 365 または Google Workspace）のご契約が必要です。
  - ・ライセンス数は使用数分のご契約が必要になります。
- 特権管理者のアカウントが必要です。
  - ・ MDM 管理者と SaaS アプリケーション管理者が異なる場合は、あらかじめ SaaS アプリケーションの特権管理アカウントの情報を確認しておいてください。
- 使用するドメインを SaaS アプリケーションと紐づけが必要です。
  - 📌 Office 365 で SaaS ID 連携を行う場合は、以下についても注意してください。
    - ・ 「onmicrosoft.com」以外のドメインを設定してください。
    - ・ ドメインを新規作成した場合は、既定値を「onmicrosoft.com」に設定してください。
- Office 365 で SaaS ID 連携を行う場合は、Microsoft Azure Module のインストールが必要です。以下の 2 つのモジュールをインストールしてください。
  - ・ Microsoft Online Services Sign-In Assistant for IT Professionals RTW
  - ・ Azure Active Directory Module for Windows PowerShell (64bit バージョン)
- 「セキュリティ設定 (DOM)」で「スクリーンショットの撮影」を「有効」に設定しておく必要があります。以下を参照して、設定を確認してください。
  - 📖 『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定 - Android」 - 「Device Owner Mode」 - 「セキュリティ設定 (DOM)」

各サービスのログインページの URL などは、以下を参照してください。

📖 「参考リンク集」71 ページ

## 1.3 Office 365 の SaaS ID 連携導入手順

Office 365 での SaaS ID 連携の手順です。

 手順で使用している画面は、Microsoft 社のアプリケーションに準拠します。また、Microsoft 社の仕様変更などで予告なく変更される場合があります。その場合は実際の画面に従って登録を行ってください。

### ◆導入時の流れ

項目	ページ
<a href="#">アプリの登録を行う (Microsoft Azure)</a>	<a href="#">8</a>
<a href="#">SaaS ID 連携の設定を行う (管理サイト)</a>	<a href="#">13</a>
<a href="#">コマンドを実施する (Microsoft Azure Module)</a>	<a href="#">17</a>
<a href="#">ユーザーを登録する (管理サイト)</a>	<a href="#">23</a>
<a href="#">アクセス制御を設定する (管理サイト)</a>	<a href="#">26</a>
<a href="#">機器をユーザーに紐づけする (管理サイト)</a>	<a href="#">27</a>

### 1.3.1 アプリの登録を行う（Microsoft Azure）

#### ◆操作アプリケーション：Microsoft Azure

Microsoft Azure でアプリの登録を行います。以下の登録・追加を行う必要があります。

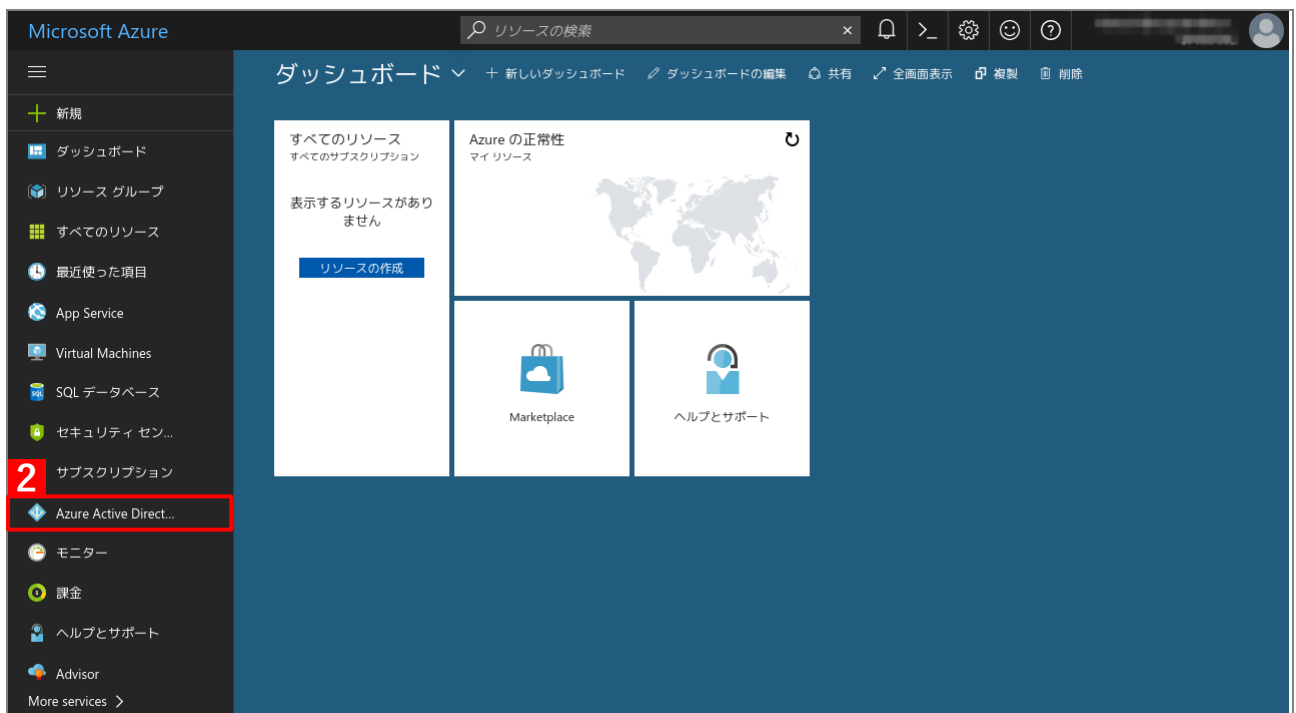
- 新しいアプリの登録
- アクセス許可を追加する
- キーの登録

🔑 ログインには、Office 365 で作成した ID とパスワードを使用してください。

#### **[1]** Microsoft Azure にログインします。

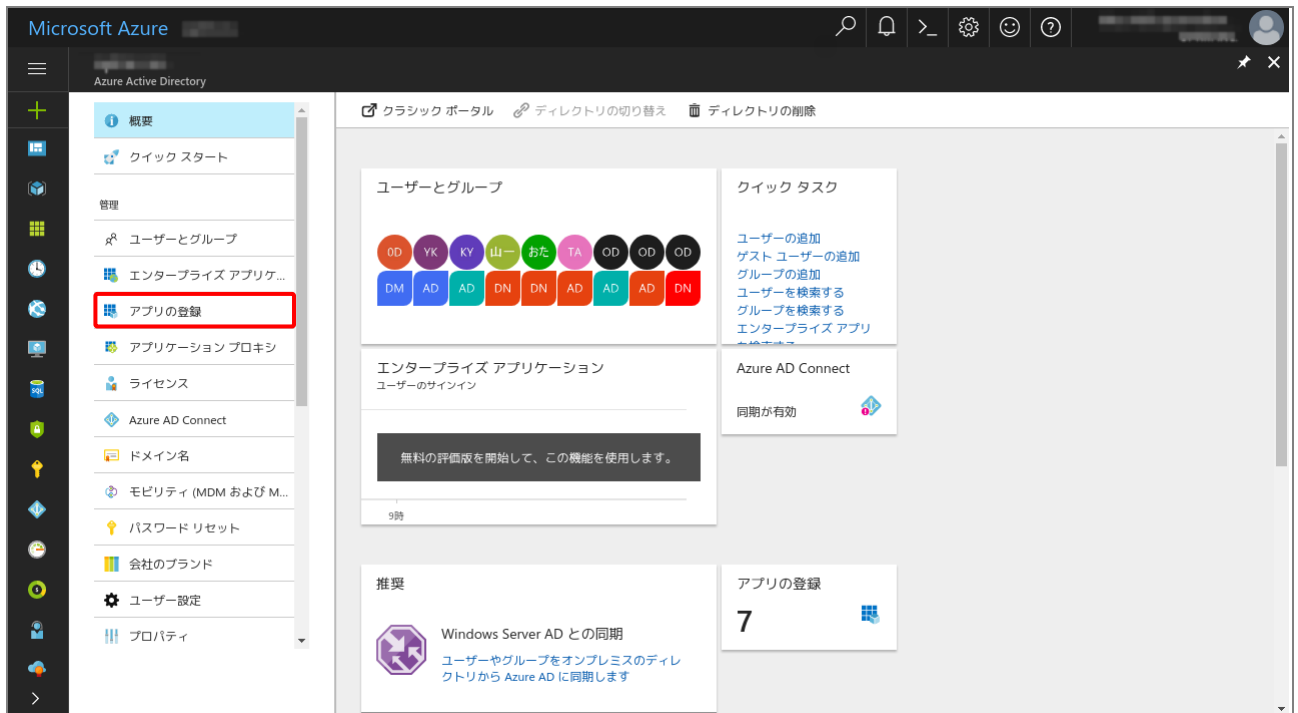
⇒ ログインすると、ダッシュボード画面が表示されます。

#### **[2]** [Azure Active Directory] をクリックします。



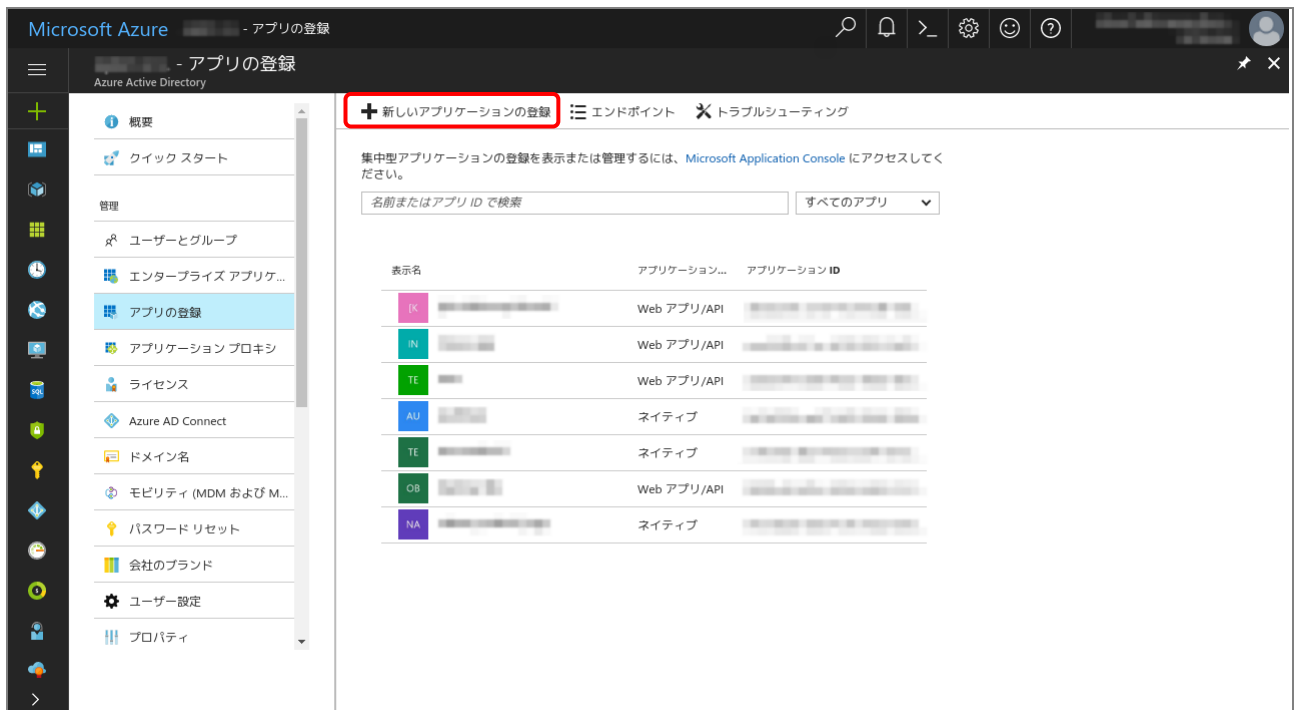


**[3]** [アプリの登録] をクリックします。



**[4]** [新しいアプリケーションの登録] をクリックします。

⇒ アプリの作成画面が表示されます。



**【5】 「名前」、「アプリケーションの種類」、「サインオン URL」を入力します。**

名前： Optimal Biz

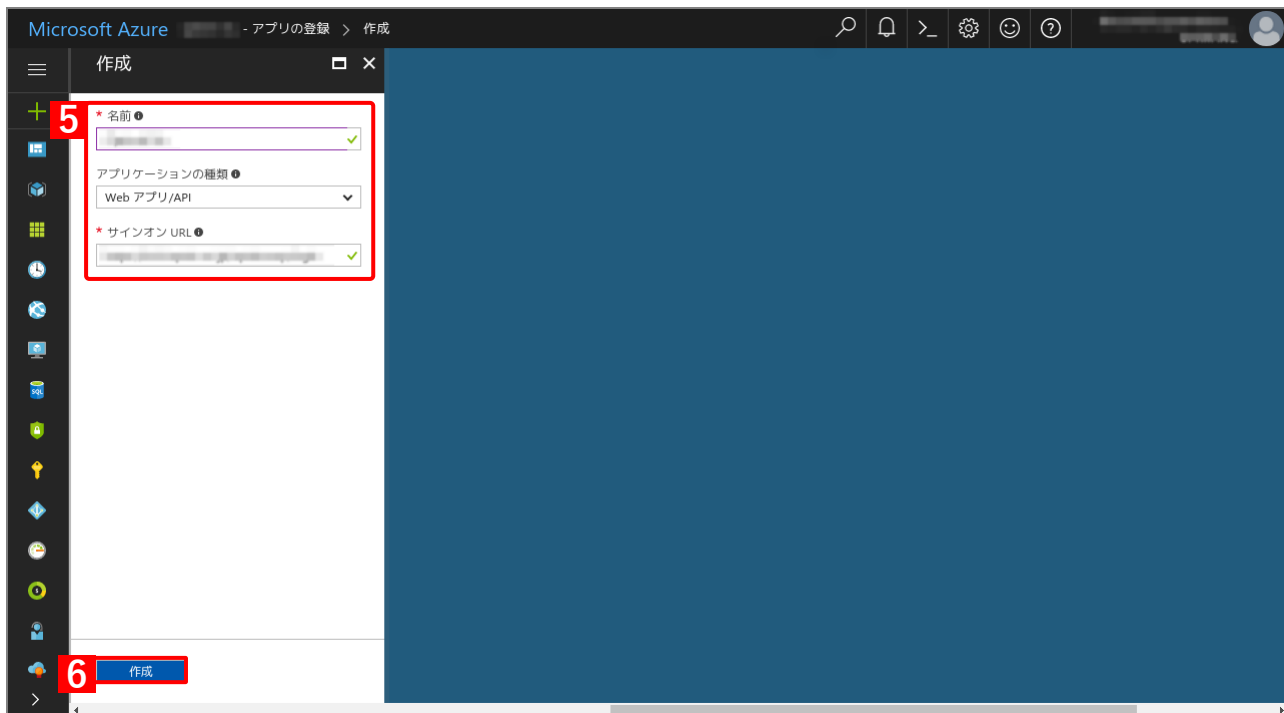
アプリケーションの種類： [Web アプリ/API]

サインオン URL： <https://biz3.optim.co.jp/企業コード/login>

名前やサインオン URL は、任意の内容を入力してください。

**【6】 「作成」をクリックします。**

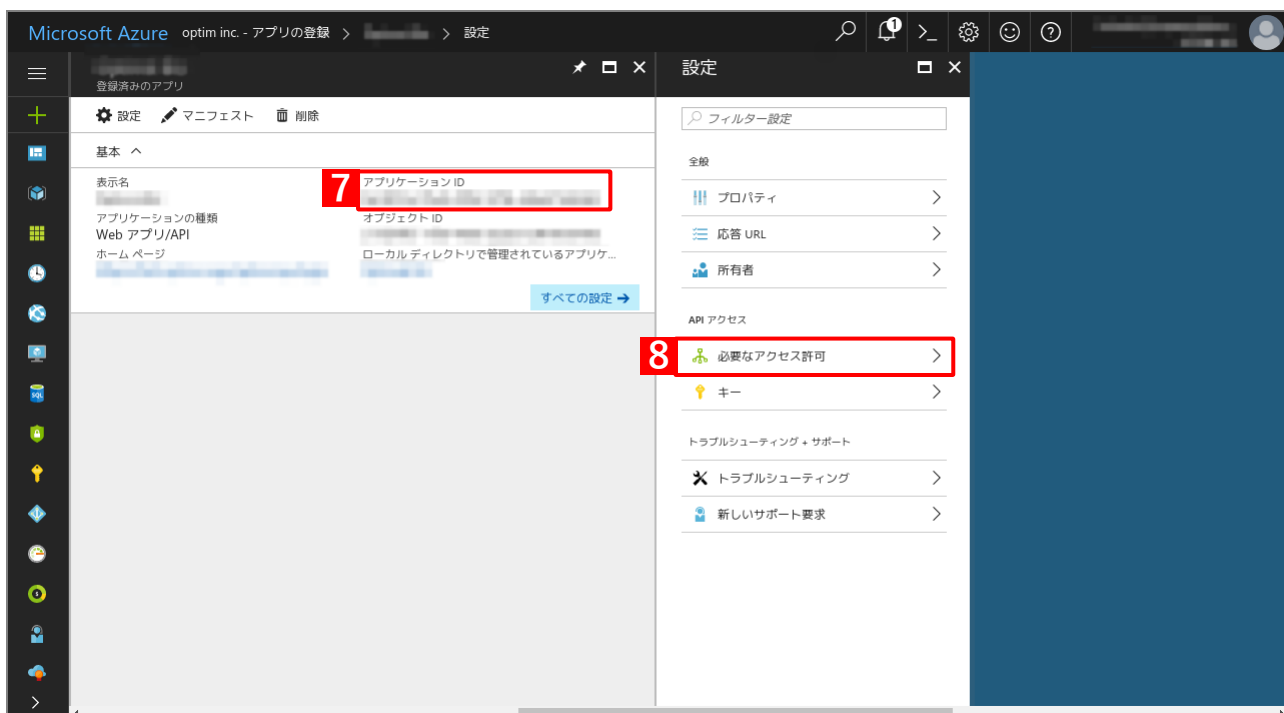
⇒ アプリが登録され、基本情報の画面が表示されます。



**【7】 「アプリケーション ID」をコピーし、メモ帳などに保存してください。**

管理サイトで SaaS ID 連携の設定を行うときに必要となります。

**【8】 API アクセスの「必要なアクセス許可」をクリックします。**



**【9】 [Windows Azure Active Directory] をクリックします。**

✎ [Windows Azure Active Directory]が表示されない場合は、(A) [追加] をクリックしてください。表示された画面の [API を選択します] から追加します。

**【10】 「アプリケーションのアクセス許可」の「Read and write directory data」を選択します。**

✎ 「Read and write directory data」は2つ存在します。「アプリケーションのアクセス許可」を選択しないと正しく動作しませんので、注意してください。

**【11】 [アクセス許可の付与] をクリックします。**

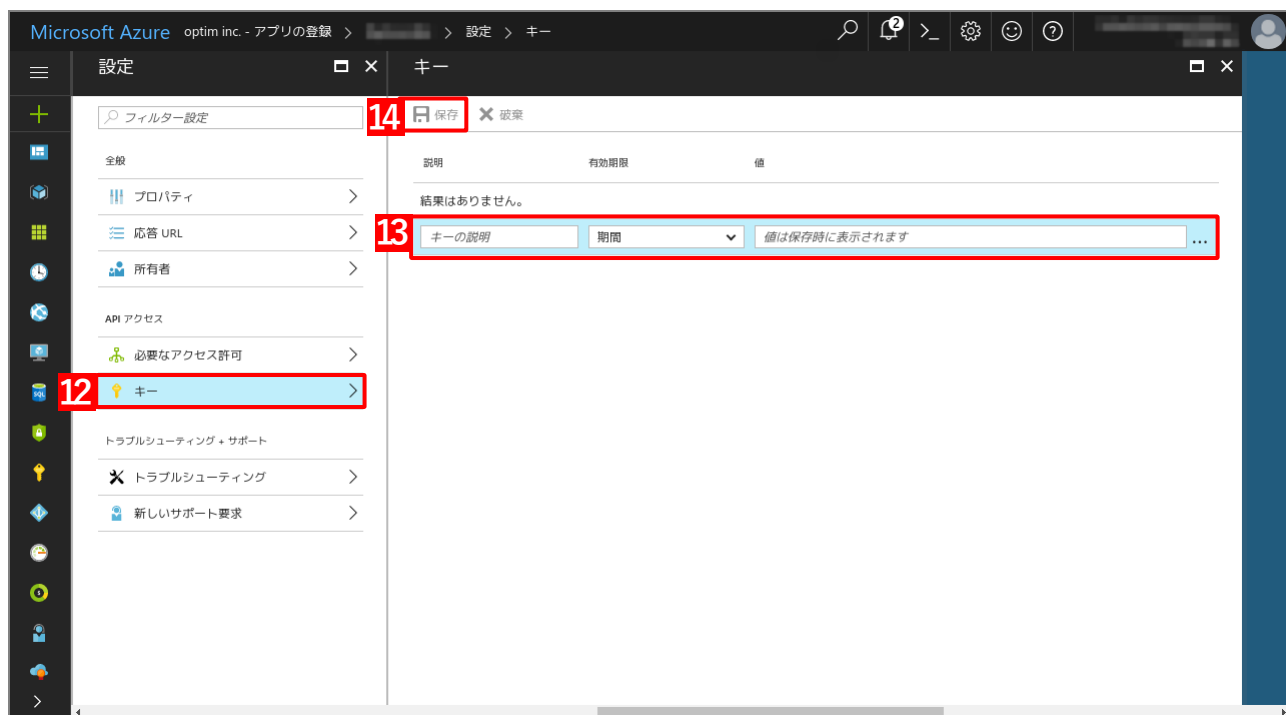
The screenshot shows the Azure Active Directory console interface. On the left, there is a navigation pane with options like 'プロパティ', '応答 URL', '所有者', 'API アクセス', '必要なアクセス許可', 'キー', 'トラブルシューティング + サポート', 'トラブルシューティング', and '新しいサポート要求'. The main area is divided into two sections: 'API' and 'アプリケーションのアクセス許可'. In the 'API' section, 'Windows Azure Active Directory (Microsoft.Azure.Act...)' is selected, with a red box around it and the number '9'. In the 'アプリケーションのアクセス許可' section, the 'Read and write directory data' permission is selected, with a red box around it and the number '10'. At the top of the console, the 'アクセス許可の付与' button is highlighted with a red box and the number '11'. The right side of the console shows a list of permissions with their status (green for 'はい', red for 'いいえ').

**[12]** 登録済みのアプリ画面から設定画面を表示し、API アクセスの [キー] をクリックします。

**[13]** キーの説明、期間を入力します。

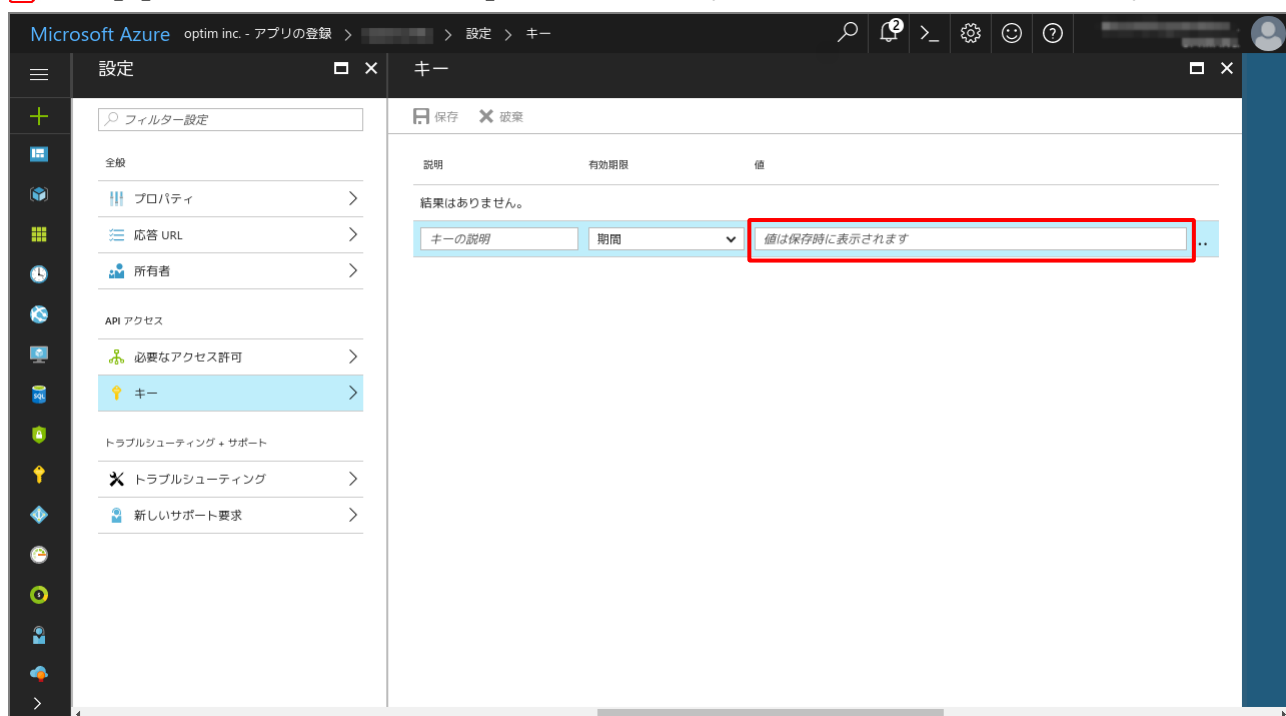
- ✎ キーの説明：Optimal Biz
- 期間：「期限なし」を推奨します。

**[14]** [保存] をクリックします。



**[15]** 登録されたキーの「値」をコピーし、メモ帳などに保存してください。

- ✎ この「値」は、管理サイトで SaaS ID 連携の設定を行うときに必要となります。
- ✎ 画面遷移を行うと二度と表示できません。忘れずにコピーをしてください。
- ✎ コピーを忘れた場合は、登録済のキーを削除し再度登録を行ってください。ただし、一度目と同じ「値」にはなりません。
- ✎ 手順【7】の「アプリケーション ID」とは異なります。混在しないようにしてください。



### 1.3.2 SaaS ID 連携の設定を行う（管理サイト）

#### ◆操作アプリケーション：管理サイト

管理サイトで SaaS ID 連携の設定を行います。Microsoft Azure で登録した「アプリケーション ID」と「キーの値」が必要となりますので、あらかじめ準備しておいてください。

- 【1】** [設定] → [サービス環境設定] → [SaaS ID 連携] → 「Office 365」 → [編集] をクリックします。

Office 365 | Google Workspace

#### SaaS ID連携

ID連携  
無効

URL  
(なし)

証明書  
(なし)

Domain  
(なし)

Client ID  
(なし)

Client Secret  
(なし)

**編集**

- 【2】** 「ID 連携」のチェックボックスにチェックを入れます。

- 【3】** [保存] をクリックします。

⇒ ID 連携が有効になり、URL と証明書が表示されます。

Office 365 | Google Workspace

#### SaaS ID連携 - 編集

**2**  ID連携

取消 **3** 保存

【4】 [編集] をクリックします。

Office 365のID連携設定を変更しました。

Office 365 Google Workspace

### SaaS ID連携

ID連携  
有効

URL

証明書

Domain  
(なし)

Client ID  
(なし)

Client Secret  
(なし)

編集

**【5】 「Domain」、「Client ID」、「Client Secret」 を入力します。**

Domain : Office 365 アカウントに登録したドメイン


Client ID : Microsoft Azure のアプリの登録画面に表示されたアプリケーション ID

Client Secret : Microsoft Azure でアプリの登録を行ったときに表示されたキーの値

**【6】 [保存] をクリックします。**

The screenshot shows a web interface for configuring SaaS ID connections. At the top, there are two tabs: "Office 365" (selected) and "Google Workspace". Below the tabs is a header "SaaS ID連携 - 編集" and a checked checkbox "ID連携". The main form area contains three input fields: "Domain", "Client ID", and "Client Secret". A red box highlights these three fields, and a red "5" is placed to the left of the "Domain" label. At the bottom right of the form, there are two buttons: "取消" (Cancel) and "保存" (Save). A red "6" is placed to the left of the "保存" button.

**【7】登録内容が保存されました。**

 URL、証明書、Domain は、次章「コマンドを実施する (Microsoft Azure Module)」で使用します。

**i** Office 365のID連携設定を変更しました。

Office 365

Google Workspace

**SaaS ID連携**

ID連携  
有効

URL  
[Redacted]

証明書  
[Redacted]

Domain  
[Redacted]

Client ID  
[Redacted]

Client Secret  
[Redacted]

編集

16



### 1.3.3 コマンドを実施する (Microsoft Azure Module)

#### ◆操作アプリケーション：Microsoft Azure Module

Windows で Microsoft Azure Module を使用し、Federation の設定を行います。Microsoft Azure Active Directory Module for Windows PowerShell を起動し、コマンドを実行します。

管理サイトで表示された「URL」と「証明書」の情報が必要となりますので、あらかじめ準備しておいてください。

📌 ログインには、Office 365 で作成した ID とパスワードを使用してください。

**[1] スタートメニューから、Microsoft Azure Active Directory Module for Windows PowerShell を起動します。**

📌 「Azure」で検索し、表示された「Microsoft Azure Active Directory Module for Windows PowerShell」を起動してください。

**[2] 以下のコマンドを実行して、接続を行います。**

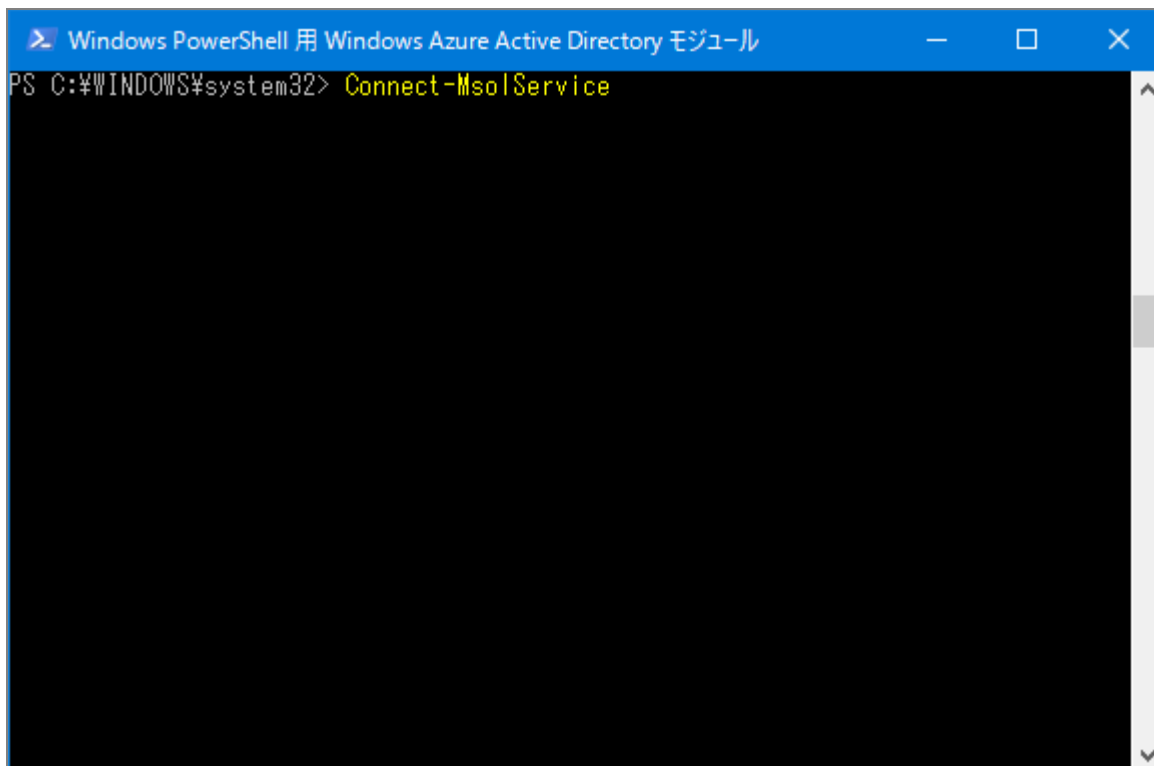
#### コマンド：Connect-MsolService

📌 正しく接続されるとサインイン画面が表示されますので、ログインします。

📌 「'Connect-MsolService' は、コマンドレット、関数、(中略)の名前として認識されません。」というエラーが出た場合は、以下の URL を起動し、「手順 1：必要なソフトウェアをインストールします」を行ってください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/office365/enterprise/powershell/connect-to-office-365-powershell#step-1-install-required-software>

📌 Windows 7 環境の場合、「このアセンブリは現在読み込まれているランタイムより新しいランタイムでビルドされているため、読み込むことができません。」というエラーが表示されることがあります。その場合は、Microsoft Azure Active Directory Module for Windows PowerShell のバージョンアップを行ってください。



**【3】** 以下のコマンドを実行して、変数を登録します。

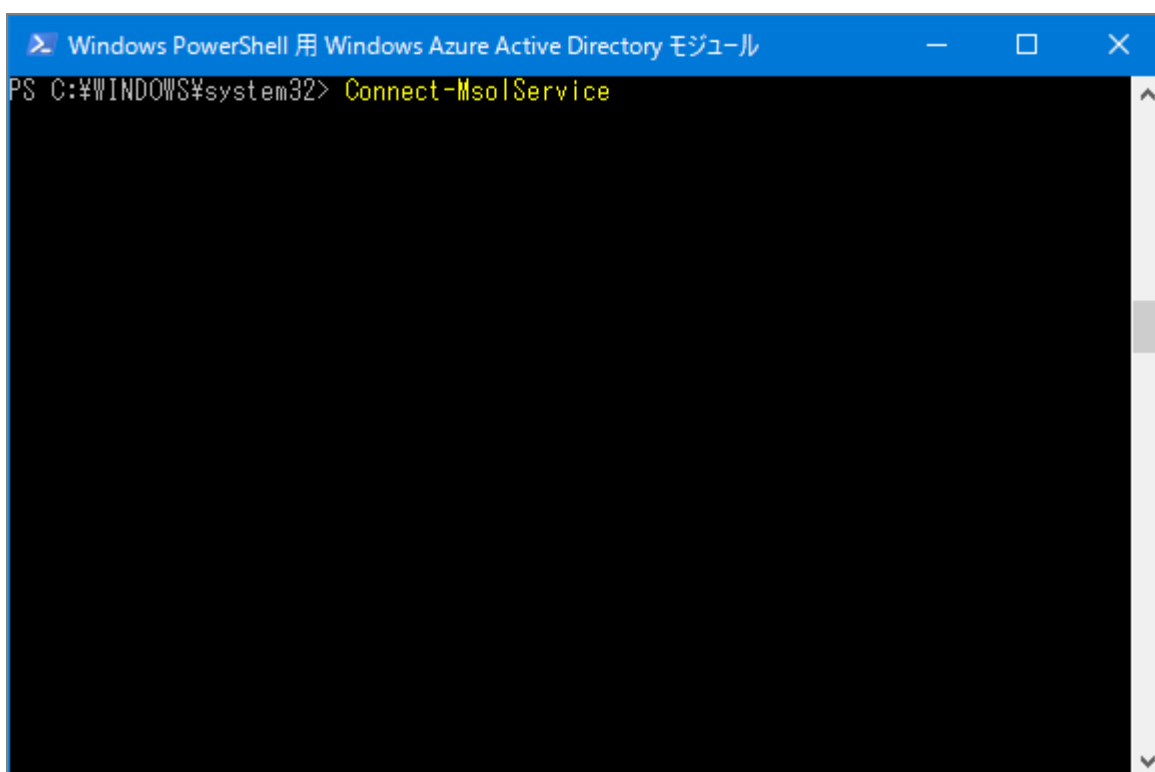
コマンド：

```
$domain = "「SaaS ID 連携」画面の<Domain>"  
$brand = "<表示名(例：Optimal Biz>"  
$entity_id = "「SaaS ID 連携」画面の<URL>"  
$login_url = "「SaaS ID 連携」画面の<URL>"  
$logout_url = "「SaaS ID 連携」画面の<URL>"  
$cert = "「SaaS ID 連携」画面の<証明書>"
```

✎ ダブルクォーテーション("")の中は、管理サイトで設定した内容に置き換えます。メモ帳などで編集を行ってから、コマンドを実行するようにしてください。

✎ 「SaaS ID 連携」画面とは、管理サイトの画面となります。詳細は、以下を参照してください。

🔗 「SaaS ID 連携の設定を行う（管理サイト）」の手順【7】



```
Windows PowerShell 用 Windows Azure Active Directory モジュール  
PS C:\WINDOWS\system32> Connect-MsolService
```

**【4】** 以下のコマンドとパラメーターを実行して、Federation を設定します。

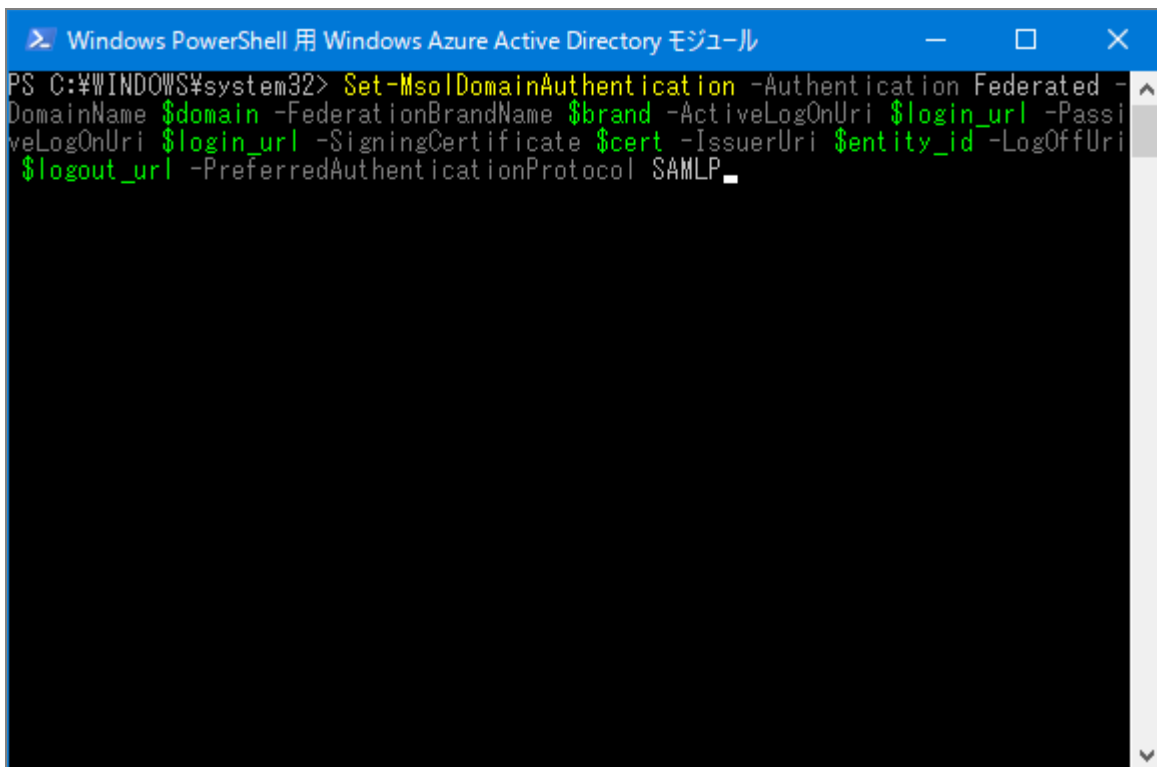
コマンド：

Set-MsolDomainAuthentication

パラメーター：

-Authentication Federated  
-DomainName \$domain  
-FederationBrandName \$brand  
-ActiveLogOnUri \$login\_url  
-PassiveLogOnUri \$login\_url  
-SigningCertificate \$cert  
-IssuerUri \$entity\_id  
-LogOffUri \$logout\_url  
-PreferredAuthenticationProtocol SAML

- コマンドとパラメーターは一行で入力してください。
- コマンドとパラメーター、パラメーターとパラメーターの間は半角スペースを入力してください。
- この手順では、コマンドを実行しても何も起こりません。設定が正しく行われているかは、手順【5】で確認してください。



```
Windows PowerShell 用 Windows Azure Active Directory モジュール
PS C:\WINDOWS\system32> Set-MsolDomainAuthentication -Authentication Federated -
DomainName $domain -FederationBrandName $brand -ActiveLogOnUri $login_url -Passi
veLogOnUri $login_url -SigningCertificate $cert -IssuerUri $entity_id -LogOffUri
$logout_url -PreferredAuthenticationProtocol SAML
```

- 【5】** 以下のコマンドを実行して、設定した値が入力されていることを確認します。

コマンド：

**Get-MsolDomainFederationSettings -Domain <「SaaS ID 連携」画面の<Domain>>**

- ✎ <「SaaS ID 連携」画面の<Domain>>は、該当のドメインに置き換えてください。
  - ✎ 「SaaS ID 連携」画面とは、管理サイトの画面となります。詳細は、以下を参照してください。
- 🔗 「SaaS ID 連携の設定を行う（管理サイト）」の手順【7】

```
Windows PowerShell 用 Windows Azure Active Directory モジュール
PS C:\WINDOWS\system32> Set-MsolDomainAuthentication -Authentication Federated -
DomainName $domain -FederationBrandName $brand -ActiveLogOnUri $login_url -Passi
veLogOnUri $login_url -SigningCertificate $cert -IssuerUri $entity_id -LogOffUri
$logout_url -PreferredAuthenticationProtocol SAML
```

- 【6】** 設定した値が表示されます。誤りがないことを確認してください。

✎ 値の開始位置と終了位置の数文字を確認するなどの方法で行ってください。

```
Windows PowerShell 用 Windows Azure Active Directory モジュール
PS C:\WINDOWS\system32> Get-MsolDomainFederationSettings -Domain
ActiveLogOnUri : https://
DefaultInteractiveAuthenticationMethod :
FederationBrandName :
IssuerUri : https://
LogOffUri : https://
MetadataExchangeUri :
NextSigningCertificate :
OpenIdConnectDiscoveryEndpoint :
PassiveLogOnUri : https://
SigningCertificate :
SupportsMfa :
PS C:\WINDOWS\system32>
```

**【7】** 以下のコマンドを実行してください。

コマンド：

**Get-MsolServicePrincipal -AppPrincipalId [アプリケーション ID]**

☑ AppPrincipalId の値は、Microsoft Azure のアプリの登録画面に表示されたアプリケーション ID を入力してください。また、この画面に表示されている (A)「ObjectId」は手順【8】の設定で入力します。

【8】

```

Windows PowerShell 用 Windows Azure Active Directory モジュール
PS C:\WINDOWS\system32> Get-MsolServicePrincipal -AppPrincipalId

ExtensionData      : System.Runtime.Serialization.ExtensionDataObject
AccountEnabled     : True
Addresses          : {Microsoft.Online.Administration.RedirectUri}
AppPrincipalId     : 
DisplayName        : 
(A) ObjectId       : 
ServicePrincipalNames : {https://
                        }
TrustedForDelegation : False

PS C:\WINDOWS\system32>

```

☑ 例)

アプリケーション ID が「aaaaaaaa-1111-bbbb-2222-cccccccccccc」の場合は、下の画像のようになります。

☑ 下の画像は手順用に作成した画面であり、実際のものとは異なります。

```

> Get-MsolServicePrincipal -AppPrincipalId aaaaaaaaa-1111-bbbb-2222-cccccccccccc
ExtensionData      : System.Runtime.Serialization.ExtensionDataObject
AccountEnabled     : True
Addresses          : {Microsoft.Online.Administration.RedirectUri}
AppPrincipalId     : aaaaaaaaa-1111-bbbb-2222-cccccccccccc
DisplayName        : 
ObjectId          : dddddddd-3333-eeee-4444-ffffffffffff
ServicePrincipalNames : {https://example.onmicrosoft.com/
                        , aaaaaaaaa-1111-bbbb-2222-cccccccccccc}
TrustedForDelegation : False

```

**【8】** 以下のコマンドを実行して、RoleMemberObjectID に ObjectID を指定します。

コマンド：

Add-MsolRoleMember

パラメーター：

-RoleName "User Administrator" -RoleMemberType ServicePrincipal -RoleMemberObjectID  
 <「Get-MsolServicePrincipal」実行時の<ObjectID>>

- <「Get-MsolServicePrincipal」実行時の<ObjectID>は、該当の ObjectID に置き換えてください。
- コマンドとパラメーターは一行で入力してください。
- コマンドとパラメーター、パラメーターとパラメーターの間は半角スペースを入力してください。

```

PS C:\WINDOWS\system32> Add-MsolRoleMember -RoleName "User Administrator" -RoleMemberType ServicePrincipal -RoleMemberObjectID
  
```

例)

RoleMemberObjectID に ObjectID「ddddddd-3333-eeee-4444-ffffffffffff」を指定します。

ObjectID は、手順【7】の例で使用している画面の「(A)」の値となります。【7】

下の画像は手順用に作成した画面であり、実際のものとは異なります。

```

> Add-MsolRoleMember -RoleName "User Administrator" -RoleMemberType ServicePrincipal -RoleMemberObjectID ddddddd-3333-eeee-4444-ffffffffffff
  
```

### 1.3.4 ユーザーを登録する（管理サイト）

#### ◆操作アプリケーション：管理サイト

管理サイトでユーザーの登録および設定を行います。

**[1]** [ユーザー] → [一覧] →一覧から対象となるユーザーをクリックします。

**[2]** 「姓」、「名」、「メールアドレス」を確認します。

SaaS ID 連携を行うためには、姓欄と名欄が入力されているか、名前欄の姓と名が半角スペースで区切られている必要があります。

メールアドレスのドメインは、Office 365 アカウントに登録したドメインである必要があります。

修正が必要な場合は、(A) [編集] をクリックします。

新規でユーザーを登録する場合は、「+」ボタンをクリックしてください。

The screenshot displays the user management interface. On the left, a search bar is set to 'ユーザー名' (User Name) and a list of users is shown. The first user is highlighted with a red box and labeled '1'. On the right, the detailed view of this user is shown. The '管理情報' (Management Information) section is highlighted with a red box and labeled '2'. It contains the following fields:

- 名前 (Name): [Input field]
- フリガナ (フリガナなし) (Kana Name): [Input field]
- 姓 (Surname): [Input field]
- 名 (Name): [Input field]
- ユーザーID (User ID): [Input field]
- メールアドレス (Email Address): [Input field]
- ユーザー種別 (User Type): 管理者 (Administrator)
- 組織 (Organization): (なし) (None)
- 機器認証制限 (Device Authentication Limit): 制限なし (No Limit)

At the bottom right of this section is a red button labeled '(A) 編集' (Edit). To the right of the management information are sections for 'パスワード' (Password), '機器' (Devices), and 'SaaS ID連携' (SaaS ID Integration).

**【3】** 「パッケージ」→[編集]→「ビジネスアプリパッケージ」の「Office 365」のチェックボックスにチェックを入れます。

**【4】** 「保存」をクリックします。

ビジネスアプリパッケージの「Office 365」にチェックを入れることで、Office 365 上にユーザーが作成されます。

チェックボックスのチェックを外した場合は、Office 365 へのサインインが禁止されます。

チェックボックスのチェックを外した場合でも、Office 365 上からユーザーは削除されません。管理サイトからユーザーを削除することで、Office 365 上からも削除されます。





**[5]** 「管理」をクリックします。

**[6]** 「SaaS ID 連携」パネルの「Office 365」の表示が更新され、「ユーザー作成・更新完了」が表示されていれば SaaS ID 連携は完了です。

☑表示が切り替わるまで、時間がかかります。また、管理サイトの更新を行うと、表示が切り替わる場合があります。しばらくしても完了にならない場合は、更新を行っててください。

☑「ユーザー作成・更新処理中」のまま表示が切り替わらない場合は、SaaS ID 連携の設定に失敗している可能性があります。設定内容に誤りがないか確認してください。

✍SaaS ID 連携パネルの表示文言

(なし) : SaaS ID 連携なし

ユーザー作成・更新処理中 : ユーザー作成中

ユーザー作成・更新処理待ち : ユーザー作成待機中

ユーザー作成・更新完了 : ユーザー作成が完了

ユーザー作成・更新失敗 : ユーザー作成が失敗

The screenshot shows a user management interface with a navigation bar at the top. The '管理' (Management) tab is selected and highlighted with a red box and the number '5'. Below the navigation bar, there are two main panels. The left panel, titled '管理情報' (Management Information), contains fields for Name, Kana (なし), Surname, Name, User ID, Email Address, User Type (管理者), Organization (なし), and Device Authentication Limit (制限なし). The right panel, titled 'SaaS ID連携' (SaaS ID Linkage), contains a 'パスワード' (Password) section with a '編集' (Edit) button, a '機器' (Device) section showing '機器数 1', and a 'Office 365' section with 'ユーザー作成・更新完了' (User creation/Update completed) highlighted with a red box and the number '6'. Below the 'Office 365' section, it shows 'Google Workspace (なし)'. A '編集' (Edit) button is also present at the bottom of the '管理情報' panel.

### 1.3.5 アクセス制御を設定する（管理サイト）

#### ◆操作アプリケーション：管理サイト

エージェント認証済みの端末のみを Office 365 へログインできるようにしたい場合には、アクセス制御の設定を行います。エージェントが未インストールおよび未認証の端末での Office 365 へのログインを防止でき、セキュアな利用環境を構築できます。

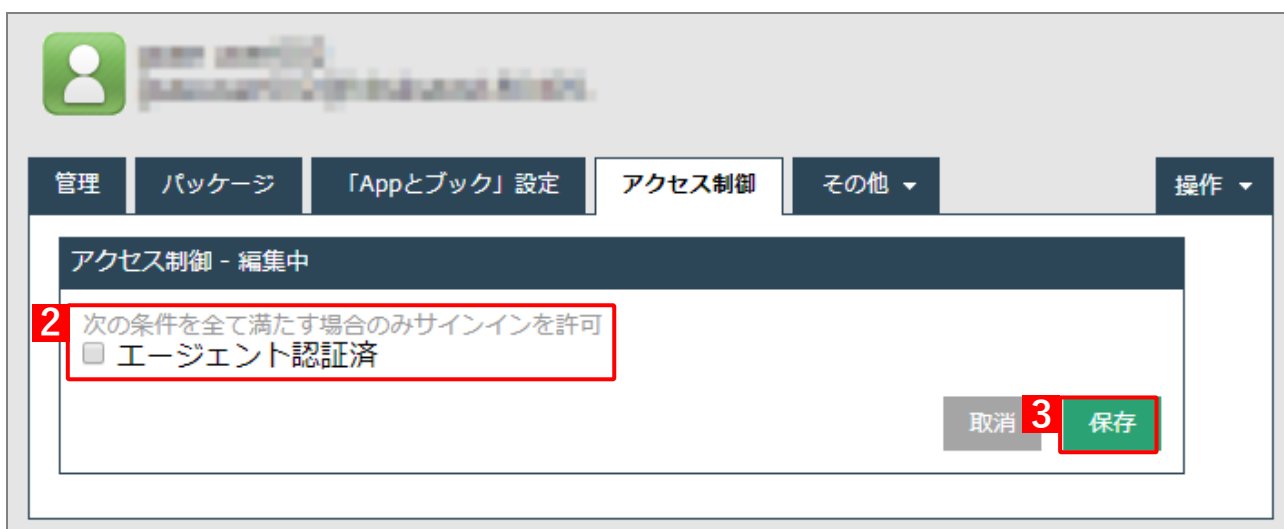
- ☑ 本機能は Android、iOS、Windows 端末のみ有効です。Mac OS 端末では使用できません。
- ☑ アクセス制御の設定を行わなくても、SaaS ID 連携による Office 365 へのログインはできます。ただし、エージェント未認証の端末でもログインができるため、設定をオンすることを推奨しています。
- ☑ アクセス制御の設定を行ったユーザーは、管理サイトへログインができなくなります。アクセス制御の設定を行う場合は、管理サイトへログインするためのユーザーと SaaS ID 連携に使用するユーザーは分けて作成してください。

- [1]** [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [アクセス制御] → [新規作成] をクリックします。



- [2]** 「エージェント認証済」のチェックボックスにチェックを入れます。


- [3]** [保存] をクリックします。

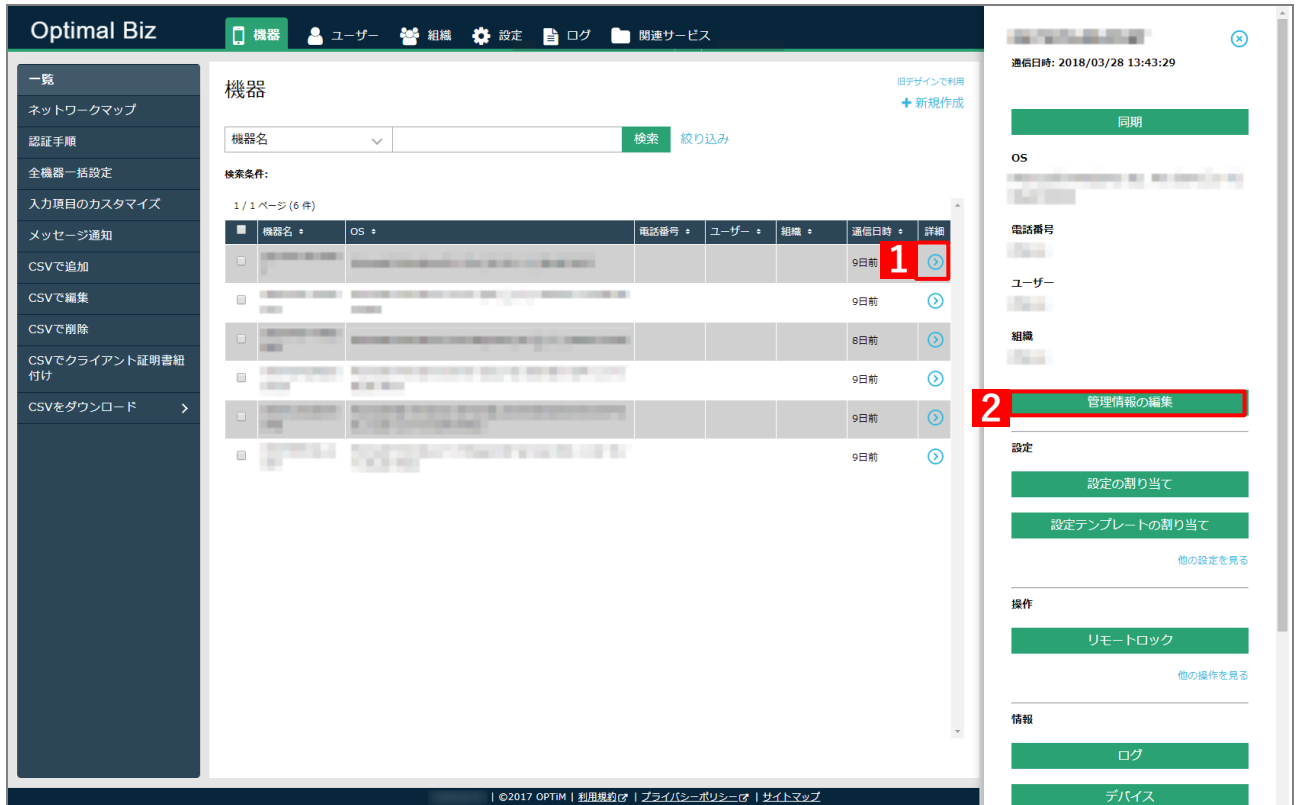


### 1.3.6 機器をユーザーに紐づけする（管理サイト）

#### ◆操作アプリケーション：管理サイト

管理サイトで機器をユーザーに紐づけします。

- [1]** [機器] → [一覧] → 一覧からユーザーを紐づけたい機器の「詳細」にある  をクリックします。
- [2]** [管理情報の編集] をクリックします。



Optimal Biz 管理サイトの「機器」画面のスクリーンショットです。左側にはナビゲーションメニューがあり、「一覧」が選択されています。中央には「機器」の一覧が表示されており、各機器の「詳細」ボタン（1）が赤枠で強調されています。右側には機器の詳細情報が表示されており、「管理情報の編集」ボタン（2）が赤枠で強調されています。

機器名	OS	電話番号	ユーザー	組織	通信日時	詳細
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	9日前	<b>1</b>
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	9日前	[詳細]
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	8日前	[詳細]
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	9日前	[詳細]
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	9日前	[詳細]
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	9日前	[詳細]

右側の詳細情報パネルには、OS、電話番号、ユーザー、組織、設定（設定の割り当て、設定テンプレートの割り当て）、操作（リモートロック）、情報（ログ、デバイス）などの項目があります。右側の「管理情報の編集」ボタン（2）が赤枠で強調されています。

- 【3】 「所属」 の 「ユーザー」 を選択します。
- 【4】 リストボックスから紐づけたいユーザーを選択します。
- 【5】 「保存」 をクリックします。

## 管理情報

機器名

**3** 所属

ユーザー

**4**




組織

機器カスタム項目A

**5**

## 1.4 Google Workspace の SaaS ID 連携導入手順

Google Workspace での SaaS ID 連携の手順です。

-  手順で使用している画面は、Google 社のアプリケーションに準拠します。
-  Google 社の仕様変更などで予告なく変更される場合があります。その場合は、実際の画面に従って登録を行ってください。
-  Android Enterprise で使用した Google Workspace アカウントは登録できません。

### ◆ 導入時の流れ

項目	ページ
<a href="#">SaaS ID 連携の設定を行う（管理サイト）</a>	<a href="#">30</a>
<a href="#">シングルサインオンを設定する(Google 管理コンソール)</a>	<a href="#">32</a>
<a href="#">認証情報を作成する(Google APIs)</a>	<a href="#">34</a>
<a href="#">サービスアカウントへ権限を付与する（Google 管理コンソール）</a>	<a href="#">40</a>
<a href="#">プロビジョニングの設定を行う（管理サイト）</a>	<a href="#">42</a>
<a href="#">ユーザーを登録する（管理サイト）</a>	<a href="#">44</a>
<a href="#">アクセス制御を設定する（管理サイト）</a>	<a href="#">47</a>
<a href="#">機器をユーザーに紐づけする（管理サイト）</a>	<a href="#">48</a>
<a href="#">ユーザー種別を確認・変更する（Google 管理コンソール）</a>	<a href="#">50</a>

### 1.4.1 SaaS ID 連携の設定を行う（管理サイト）

#### ◆操作アプリケーション：管理サイト

管理サイトで SaaS ID 連携の設定を行います。

- 【1】** [設定] → [サービス環境設定] → [SaaS ID 連携] → 「Google Workspace」 → [編集] をクリックします。

The screenshot shows the 'SaaS ID連携' (SaaS ID Integration) settings page for Google Workspace. The page has two tabs: 'Office 365' and 'Google Workspace', with 'Google Workspace' selected. The settings are as follows:

項目	値
ID連携	無効
ログインページURL	(なし)
ログアウトページURL	(なし)
パスワード変更URL	(なし)
証明書	(なし)
Apps Domain	(なし)
Admin Email	(なし)
Service Account JSON	(なし)

A red box highlights the '編集' (Edit) button in the bottom right corner of the settings area.

- 【2】** 「ID 連携」のチェックボックスにチェックを入れます。
- 【3】** 「Apps Domain」、「Admin Email」を入力します。
- ☑ Apps Domain : Google Workspace アカウントに登録したドメイン  
Admin Email : Google Workspace 購入時に配布された特権管理者のメールアドレス
- 【4】** 「保存」をクリックします。

- 【5】** ID 連携が有効になり、各種 URL と証明書が表示されます。Google 管理コンソール画面で設定を行うときに必要となります。

- ☑ 証明書の情報は、あらかじめ (A) [証明書ダウンロード] からファイルのダウンロードをしておいてください。管理コンソール画面での設定時に、ファイルのアップロードが必要となります。


## 1.4.2 シングルサインオンを設定する(Google 管理コンソール)

### ◆操作アプリケーション：Google 管理コンソール

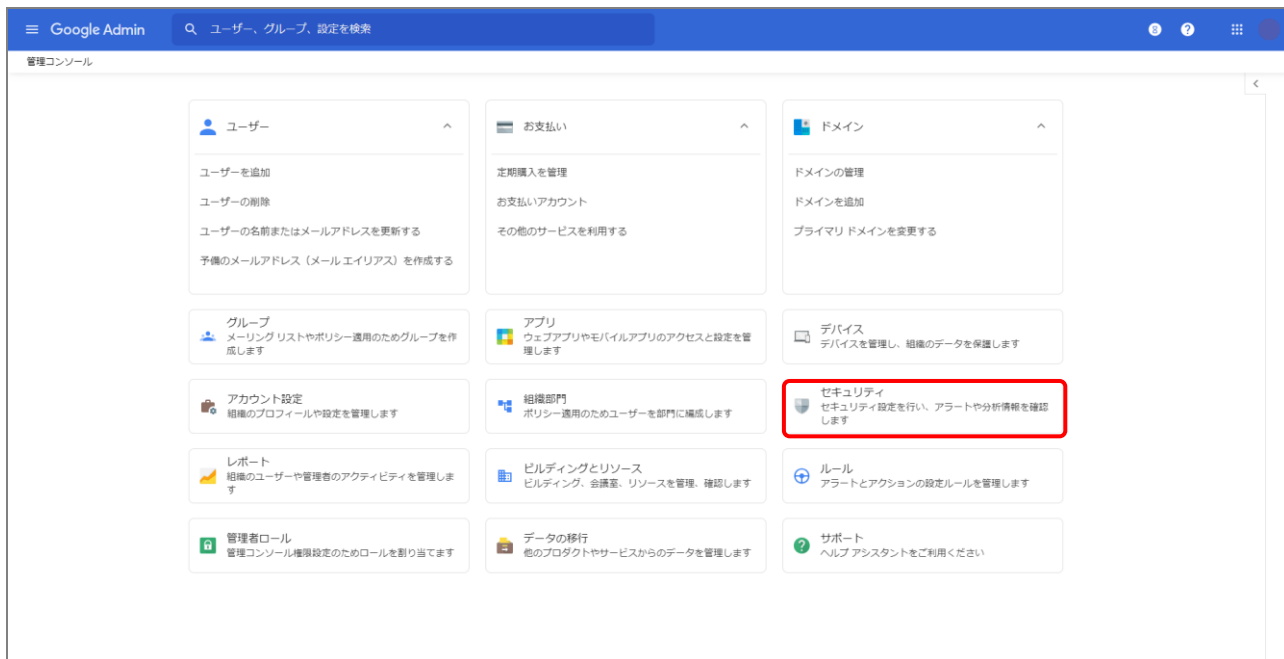
Google 管理コンソールでシングルサインオンを設定します。

管理サイトで表示された「URL」と「証明書」の情報が必要となります。あらかじめ準備しておいてください。

 ログインには、Google Workspace 購入時に配布された情報を使用してください。

 初回ログイン時には、パスワードの変更を求められます。画面に従って変更を行ってください。

#### [1] Google 管理コンソールにログインし、[セキュリティ] をクリックします。



#### [2] 「サードパーティの ID プロバイダを使用したシングルサインオン (SSO) の設定」をクリックします。

⇒ 詳細内容が表示されます。





- [3]** 「サードパーティの ID プロバイダで SSO を設定する」のチェックボックスにチェックを入れます。
- [4]** 「ログインページの URL」、「ログアウトページ URL」、「パスワード変更 URL」を入力します。  
 [管理サイトで表示された各種 URL の情報を、該当箇所に入力してください。]
- [5]** 認証の確認に、管理サイトでダウンロードした証明書ファイルをアップロードします。
- [6]** 「ドメイン固有の発行元を使用」のチェックボックスにチェックを入れます。
- [7]** [保存] をクリックします。  
 [ネットワークマスク] の設定は不要です。

The screenshot shows the Google Admin Security page for SSO configuration. The interface is in Japanese. At the top, there's a navigation bar with 'Google Admin' and a search bar. Below that, the page title is 'セキュリティ' (Security). The main content area is divided into sections:

- 証明書** (Certificate): Includes a 'ダウンロード' (Download) button.
- オプション 2** (Option 2): Includes an 'IDP メタデータ' (IDP Metadata) section with a 'ダウンロード' (Download) button.
- 3**  **サードパーティの ID プロバイダで SSO を設定する** (Set up SSO with a third-party ID provider). Below this is a note: 'サードパーティを ID プロバイダとして設定するには、次の情報を入力してください。' (To set up a third party as an ID provider, enter the following information.)
- 4** **ログイン ページの URL** (Login page URL), **ログアウト ページ URL** (Logout page URL), and **パスワード変更 URL** (Password change URL). Each has a text input field and a description. The entire section is enclosed in a red box.
- 5** **認証の確認** (Verify authentication). It includes a 'ファイルを選択' (Select file) button and an 'アップロード' (Upload) button. This section is also enclosed in a red box.
- 6**  **ドメイン固有の発行元を使用** (Use domain-issued issuer). Below this is the 'ネットワーク マスク' (Network mask) section with a text input field and a detailed explanation of network masks.
- 7** At the bottom right, there are two buttons: '破棄' (Delete) and '保存' (Save). The '保存' button is highlighted with a red box.

### 1.4.3 認証情報を作成する(Google APIs)

#### ◆操作アプリケーション：Google APIs

Google APIs で認証情報を作成します。

📌 ログインには、Google Workspace 時に配布された情報を使用してください。

**【1】** Google APIs にログインし、ダッシュボード画面から **「認証情報」** をクリックします。



**【2】** **「作成」** をクリックします。



**【3】** プロジェクトを新規に作成するため、「プロジェクト名」を入力します。

例)

プロジェクト名： Optimal Biz

プロジェクト名は任意の内容を入力してください。

**【4】** 「メール通知」、「利用規約」について適宜選択します。

**【5】** 「作成」をクリックします。

Google APIs

新しいプロジェクト

**3** プロジェクト名 ?

プロジェクト名: Optimal Biz

プロジェクト ID は xxxxxxxxxxxx です ? 編集

**4** 新機能のお知らせ、パフォーマンスに関するアドバイス、フィードバック調査、特典に関する最新情報をメールで受け取ります。

はい  いいえ

すべてのサービスと関連 API について、適用される利用規約を遵守して利用することに同意します。

はい  いいえ

**5** 作成 キャンセル

**【6】** 認証情報画面を再度表示し、「認証情報を作成」のリストボックスから「サービスアカウントキー」を選択します。

API 認証情報

API へのアクセスには認証情報が必要です。使用する API を有効化し、必要な認証情報を作成してください。API に応じて、API キー、サービス アカウント、または OAuth 2.0 クライアント ID が必要です。詳しくは、API ドキュメントをご覧ください。

認証情報を作成 ▾

- API キー  
シンプル API キーを使用してプロジェクトを識別し、割り当てとアクセスを確認します
- OAuth クライアント ID  
ユーザーのデータにアクセスできるようにユーザーの同意をリクエストします
- サービス アカウント キー**  
ロボット アカウントによるサーバー間でのアプリレベルの認証を有効にします

ウィザードで選択  
使用する認証情報の種類を決定するため、いくつかの質問をします

**【7】** 「サービスアカウント」のリストボックスから「新しいサービスアカウント」を選択します。

**【8】** 「サービスアカウント名」を入力します。



サービスアカウント名： Optimal Biz

半角英数字の ID で入力してください。

**【9】** 「役割」のリストボックスから「Project」→「オーナー」を選択します。

**【10】** 「作成」をクリックします。

⇒JSON ファイルがダウンロードされます。

サービスアカウント ID は、サービスアカウント名から自動生成されます。

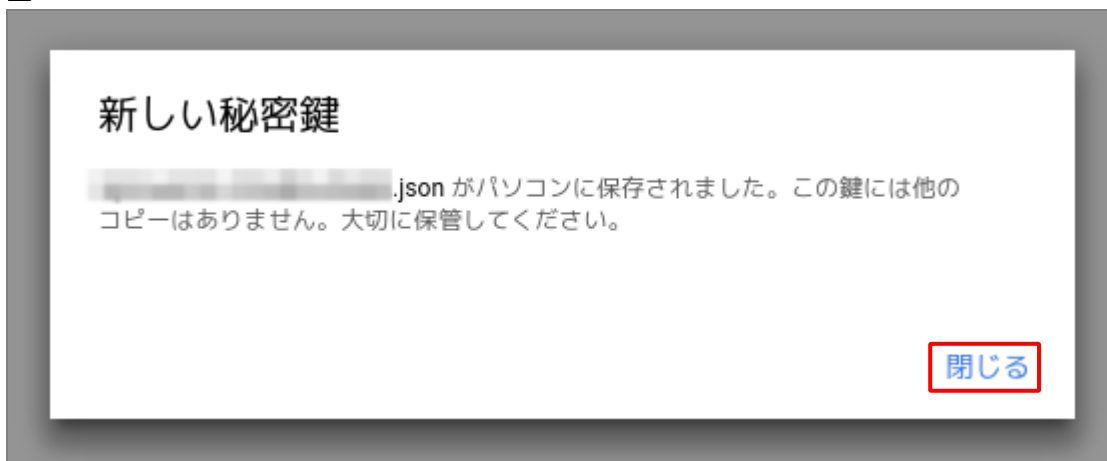
キーのタイプは、「JSON」のまま変更しないでください。

**【11】** 「閉じる」をクリックします。

⇒認証情報画面が表示されます。

管理サイトの設定に必要なファイルとなります。

コピーなどは存在しませんので、失くさないように保管してください。



**【12】** [サービスアカウントの管理] をクリックします。



**【13】** 手順【8】で作成したサービスアカウント名を選択します。

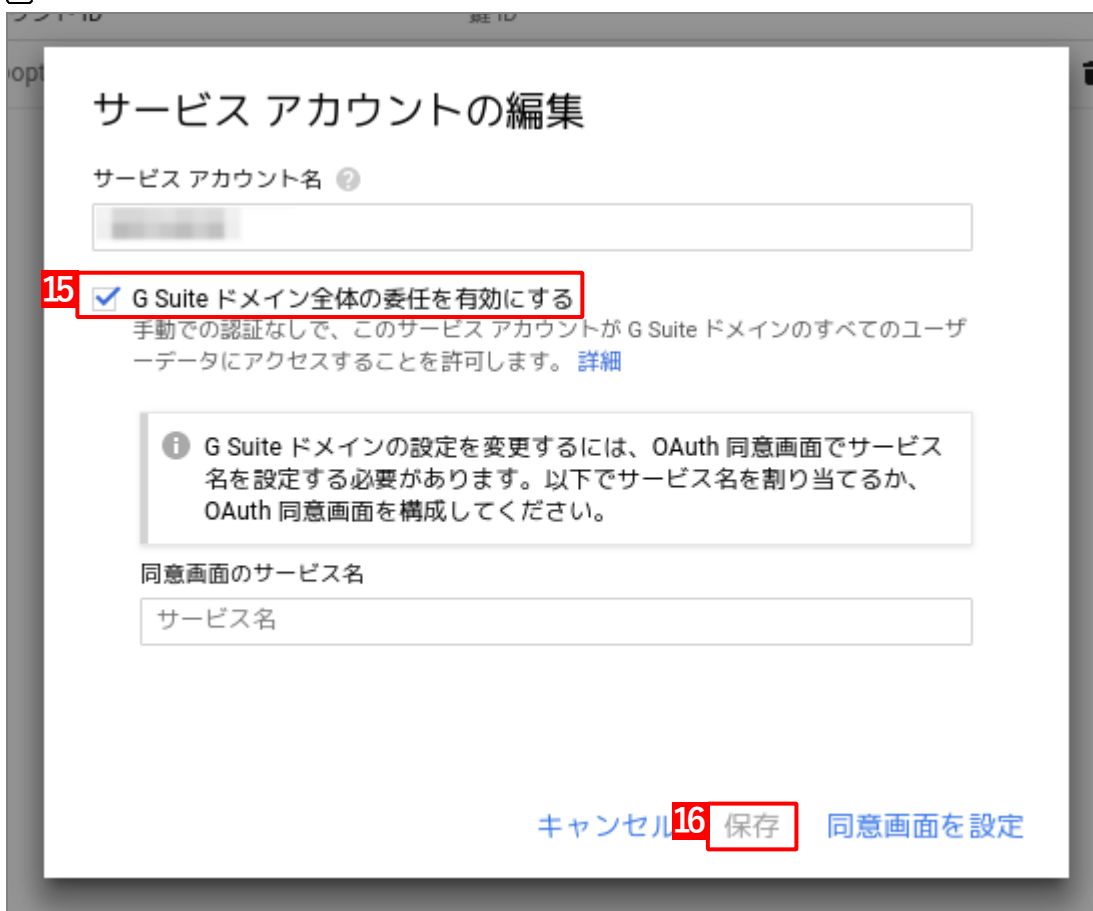
**【14】** → [編集] をクリックします。



**【15】** [G Suite ドメイン全体の委任を有効にする] のチェックボックスにチェックを入れます。

**【16】** [保存] をクリックします。

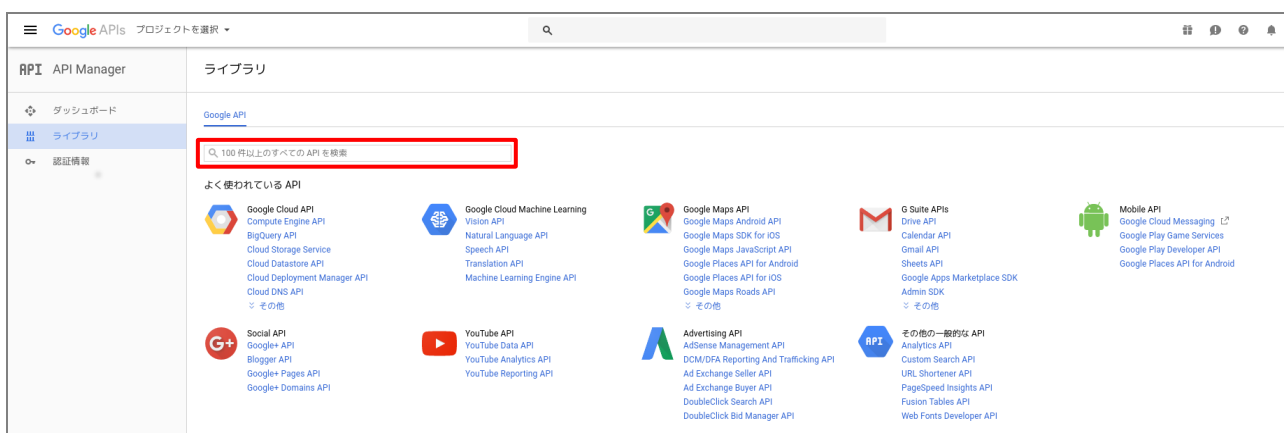
同意画面の入力は任意で設定してください。



**【17】** トップページに戻り、「ダッシュボード」の「APIを有効にする」をクリックします。



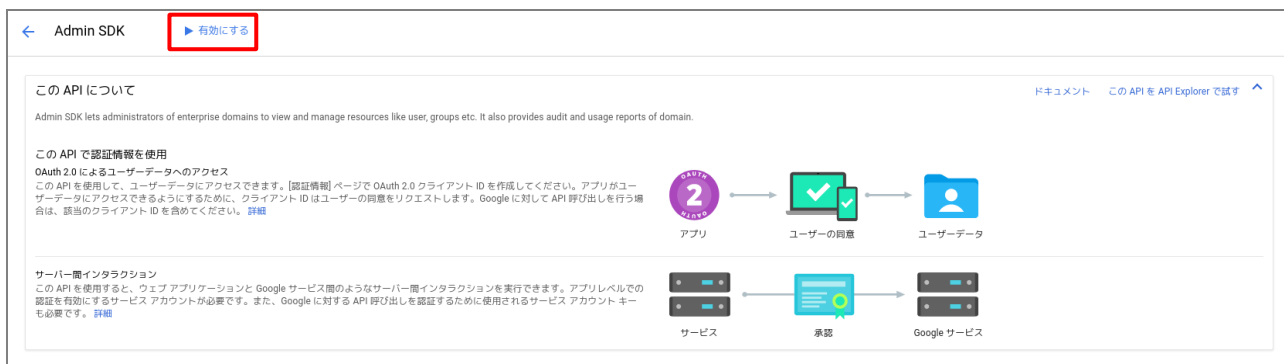
**【18】** ライブラリ画面の検索ボックスに「Admin SDK」を入力します。




**【19】** 検索結果が表示されますので、「名前欄」から該当の「Admin SDK」を選択します。



**【20】** 「有効にする」をクリックします。



**【21】** トップページに戻り、認証情報画面から「クライアント ID」をコピーします。

 この「クライアント ID」は、Google 管理コンソールの設定を行うときに必要となります。



認証情報

認証情報 OAuth 同意画面 ドメインの確認

認証情報を作成 削除

有効な API にアクセスするための証明書を作成します。詳しくは、API ドキュメントをご覧ください。

OAuth 2.0 クライアント ID

<input type="checkbox"/> 名前	作成日	タイプ	クライアント ID	
<input type="checkbox"/> のクライアント	2017/06/19	サービス アカウント クライアント	[Redacted]	  

サービス アカウント キー [サービス アカウントの管理](#)

<input type="checkbox"/> ID	作成日	サービス アカウント
<input type="checkbox"/> [Redacted]	2017/06/19	[Redacted]

## 1.4.4 サービスアカウントへ権限を付与する（Google 管理コンソール）

### ◆操作アプリケーション：Google 管理コンソール

Google 管理コンソールでサービスアカウントへ権限を付与します。

Google APIs で設定した認証情報のクライアント ID が必要となりますので、あらかじめ準備しておいてください。

🔑 ログインには、Google Workspace 購入時に配布された情報を使用してください。

#### [1] Google 管理コンソールにログインし、[セキュリティ] をクリックします。



#### [2] [API の制御] をクリックします。





**[3]** 「ドメイン全体の委任」の「ドメイン全体の委任を管理」をクリックします。



**[4]** 「新しく追加」をクリックします。

**[5]** 「クライアント ID」を入力します。

**[6]** 1つ目の「OAuth スコープ (カンマ区切り)」に以下の URL を入力します。

📄 <https://www.googleapis.com/auth/admin.directory.group>

**[7]** 2つ目の「OAuth スコープ (カンマ区切り)」に以下の URL を入力します。

📄 <https://www.googleapis.com/auth/admin.directory.user>

**[8]** 「承認」をクリックします。



## 1.4.5 プロビジョニングの設定を行う（管理サイト）

### ◆操作アプリケーション：管理サイト

管理サイトでプロビジョニングの設定を行います。


- 【1】** [設定] → [サービス環境設定] → [SaaS ID 連携] → 「Google Workspace」 → [編集] をクリックします。

The screenshot displays the 'SaaS ID連携' (SaaS ID Connection) settings for Google Workspace. The page has two tabs: 'Office 365' and 'Google Workspace', with 'Google Workspace' selected. The settings are as follows:

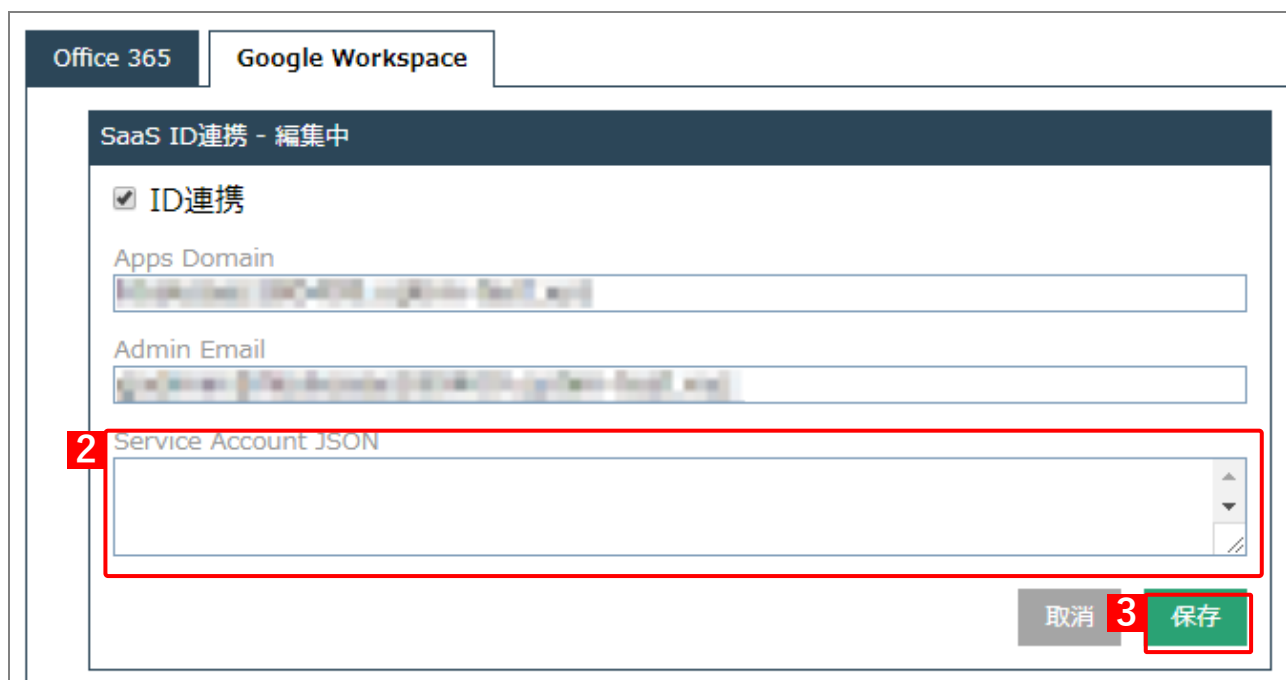
- ID連携**  
有効
- ログインページURL**  
[Redacted]
- ログアウトページURL**  
[Redacted]
- パスワード変更URL**  
[Redacted]
- 証明書**  
証明書ダウンロード
- Apps Domain**  
[Redacted]
- Admin Email**  
[Redacted]
- Service Account JSON**  
(なし)

A red box highlights the **編集** (Edit) button in the bottom right corner.

**【2】** 「Service Account JSON」 を入力します。

 Google APIs で認証情報作成時にダウンロードしたファイルの値を入力してください。

**【3】** [保存] をクリックします。



Office 365 Google Workspace

SaaS ID連携 - 編集

ID連携

Apps Domain  
[redacted]

Admin Email  
[redacted]

**2** Service Account JSON  
[redacted]

取消 **3** 保存

## 1.4.6 ユーザーを登録する（管理サイト）

### ◆操作アプリケーション：管理サイト

管理サイトでユーザーの登録および設定を行います。

**[1]** [ユーザー] → [一覧] → 一覧から SaaS ID 連携を登録したいユーザーを選択します。

**[2]** 「姓」、「名」、「メールアドレス」を確認します。

SaaS ID 連携を行うためには、姓欄と名欄が入力されているか、名前欄の姓と名が半角スペースで区切られている必要があります。

メールアドレスのドメインは、Google Workspace アカウントに登録したドメインである必要があります。

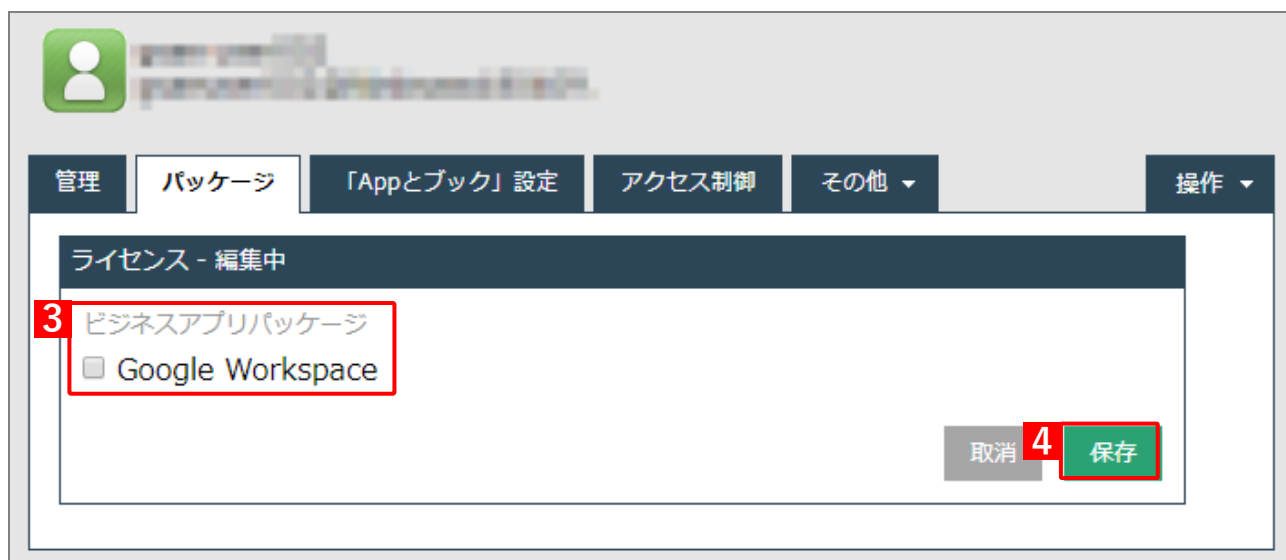
修正が必要な場合は、(A) [編集] をクリックします。

新規でユーザーを登録する場合は、**+** をクリックしてください。



The screenshot displays the user management interface. On the left, a search bar is set to '検索: ユーザー名' and '昇順: ユーザー名'. A list of users is shown, with the first user highlighted in yellow and marked with a red '1'. The detailed view of this user is shown on the right, with a red '2' pointing to the '名前' (Name) field. The '名前' field contains 'K. King' and is highlighted with a red box. Below it, the 'フリガナ (なし)' (Kana) field is empty. The '姓' (Surname) field contains 'King', and the '名' (First Name) field contains 'K.'. The 'ユーザーID' (User ID) is 'king', and the 'メールアドレス' (Email Address) is 'king@company.com'. The 'ユーザー種別' (User Type) is '管理者' (Administrator), and the '組織' (Organization) is '(なし)' (None). The '機器認証制限' (Device Authentication Limit) is '制限なし' (No Limit). A red 'A' is placed over the '編集' (Edit) button at the bottom right of the user details panel. The right sidebar shows the 'パスワード' (Password) section with '現在のパスワード' (Current Password) as '\*\*\*\*\*' and an '編集' (Edit) button. The '機器' (Device) section shows '機器数' (Number of Devices) as '1'. The 'SaaS ID連携' (SaaS ID Linkage) section shows 'Office 365 (なし)' (None) and 'Google Workspace (なし)' (None).


- 【3】** 「パッケージ」→「編集」→「ビジネスアプリパッケージ」の「Google Workspace」のチェックボックスにチェックを入れます。
- 【4】** 「保存」をクリックします。

- ビジネスアプリパッケージの「Google Workspace」にチェックを入れることで、Google Workspace 上にユーザーが作成されます。
- チェックボックスのチェックを外した場合は、Google Workspace へのサインインが禁止されます。
- チェックボックスのチェックを外した場合でも、Google Workspace 上からユーザーは削除されません。

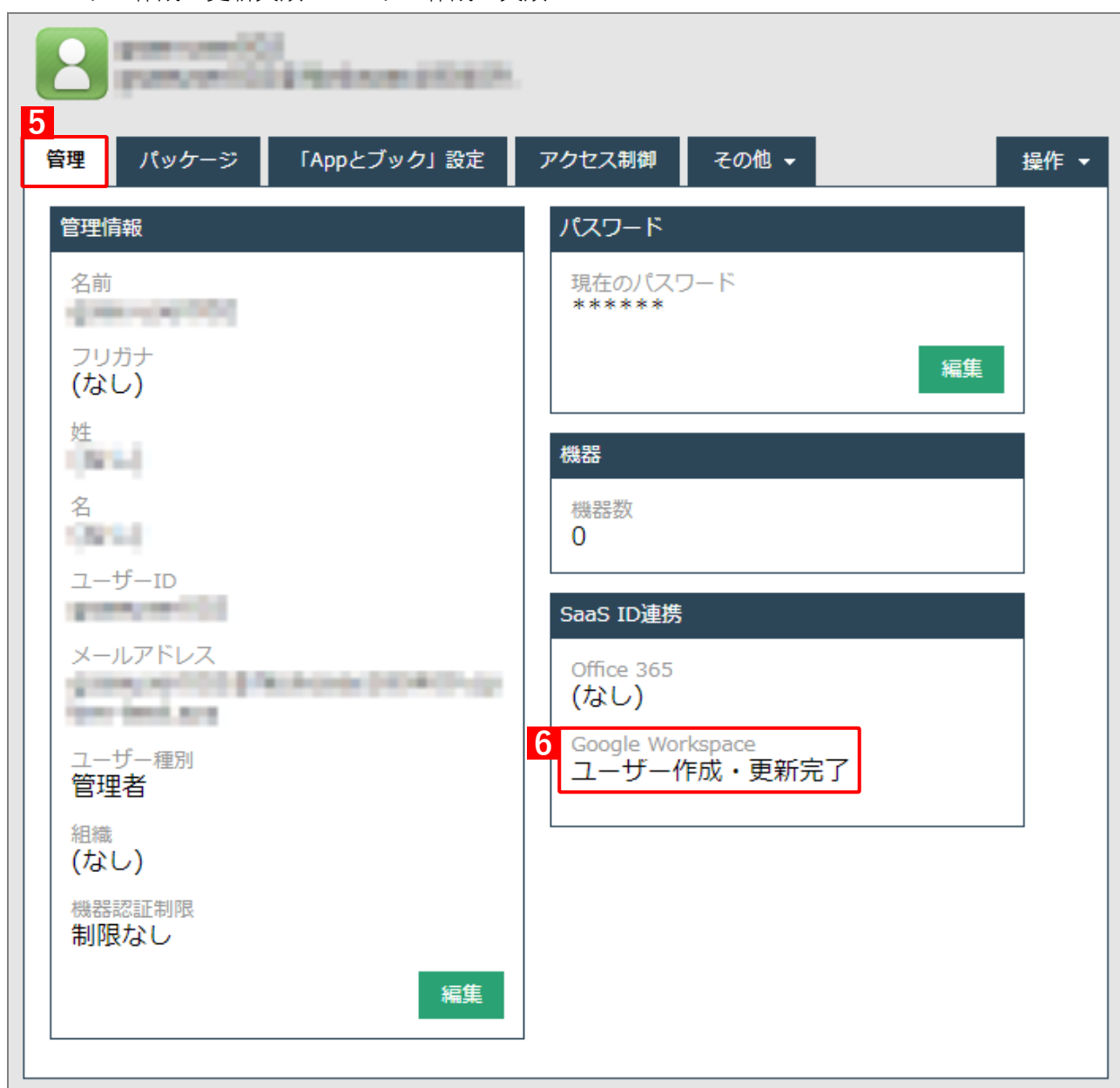


- [5]** 「管理」をクリックします。
- [6]** 「SaaS ID 連携」パネルの「Google Workspace」の表示が更新され、「ユーザー作成・更新完了」が表示されていれば SaaS ID 連携は完了です。

-  表示が切り替わるまで、時間がかかります。また、管理サイトの更新を行うと、表示が切り替わる場合があります。しばらくしても完了にならない場合は、更新を行ってみてください。
-  「ユーザー作成・更新処理中」のまま表示が切り替わらない場合は、SaaS ID 連携の設定に失敗している可能性があります。設定内容に誤りがないか確認してください。

 SaaS ID 連携パネルの表示文言

(なし) : SaaS ID 連携なし  
 ユーザー作成・更新処理中 : ユーザー作成中  
 ユーザー作成・更新処理待ち : ユーザー作成待機中  
 ユーザー作成・更新完了 : ユーザー作成が完了  
 ユーザー作成・更新失敗 : ユーザー作成が失敗



The screenshot shows a user management interface with a navigation bar at the top. The '管理' (Management) tab is selected and highlighted with a red box and a red '5'. Below the navigation bar, there are several panels. On the left is the '管理情報' (Management Information) panel, and on the right is the 'パスワード' (Password) panel. Below the password panel is the '機器' (Devices) panel, and at the bottom right is the 'SaaS ID連携' (SaaS ID Integration) panel. In the 'SaaS ID連携' panel, the 'Google Workspace' section is highlighted with a red box and a red '6', showing the status 'ユーザー作成・更新完了' (User creation/Update completed).

**5** 管理

管理情報

名前  
フリガナ (なし)  
姓  
名  
ユーザーID  
メールアドレス  
ユーザー種別 管理者  
組織 (なし)  
機器認証制限 制限なし

編集

パスワード

現在のパスワード  
\*\*\*\*\*

編集

機器

機器数  
0

SaaS ID連携

Office 365 (なし)

**6** Google Workspace  
ユーザー作成・更新完了

## 1.4.7 アクセス制御を設定する（管理サイト）

### ◆操作アプリケーション：管理サイト

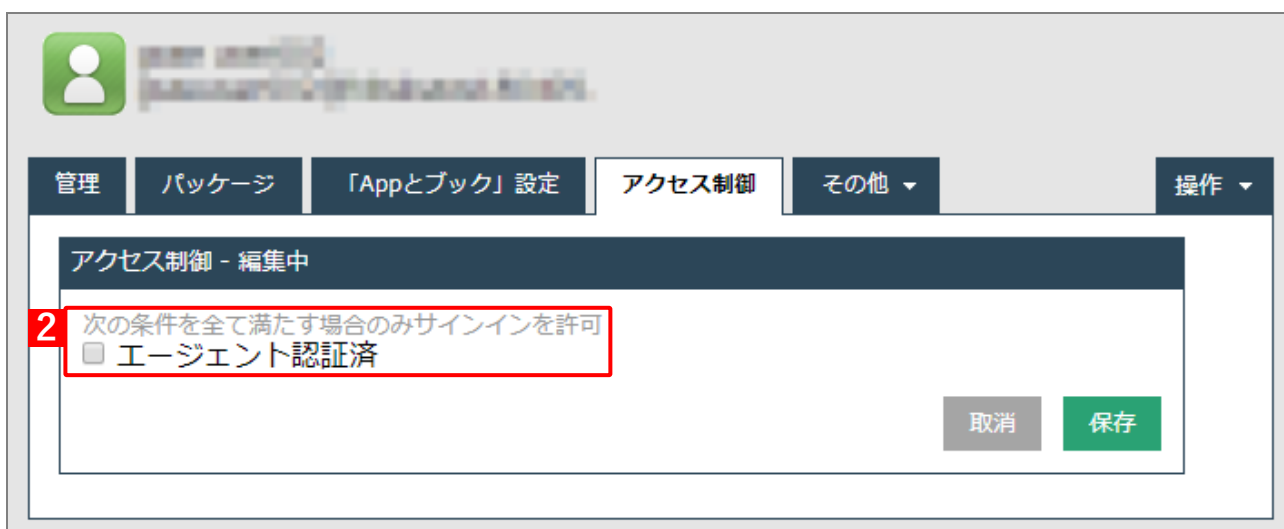
エージェント認証済みの端末のみを Google Workspace へログインできるようにしたい場合には、アクセス制御の設定を行います。エージェントが未インストールおよび未認証の端末での Google Workspace へのログインを防止できるようになり、セキュアな利用環境を構築できます。

- ☑ 本機能は Android、iOS、Windows 端末のみ有効です。Mac OS 端末では使用できません。
- ☑ アクセス制御の設定を行わなくても、SaaS ID 連携による Google Workspace へのログインはできます。ただし、エージェント未認証の端末でもログインができるようになるため、設定をオンにすることを推奨しています。
- ☑ アクセス制御の設定を行ったユーザーは、管理サイトへログインができなくなります。アクセス制御の設定を行う場合は、管理サイトへログインするためのユーザーと SaaS ID 連携に使用するユーザーは分けて作成してください。

- [1]** [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → 「アクセス制御」 → [新規作成] をクリックします。




- [2]** 「エージェント認証済」のチェックボックスにチェックを入れます。  
**[3]** [保存] をクリックします。

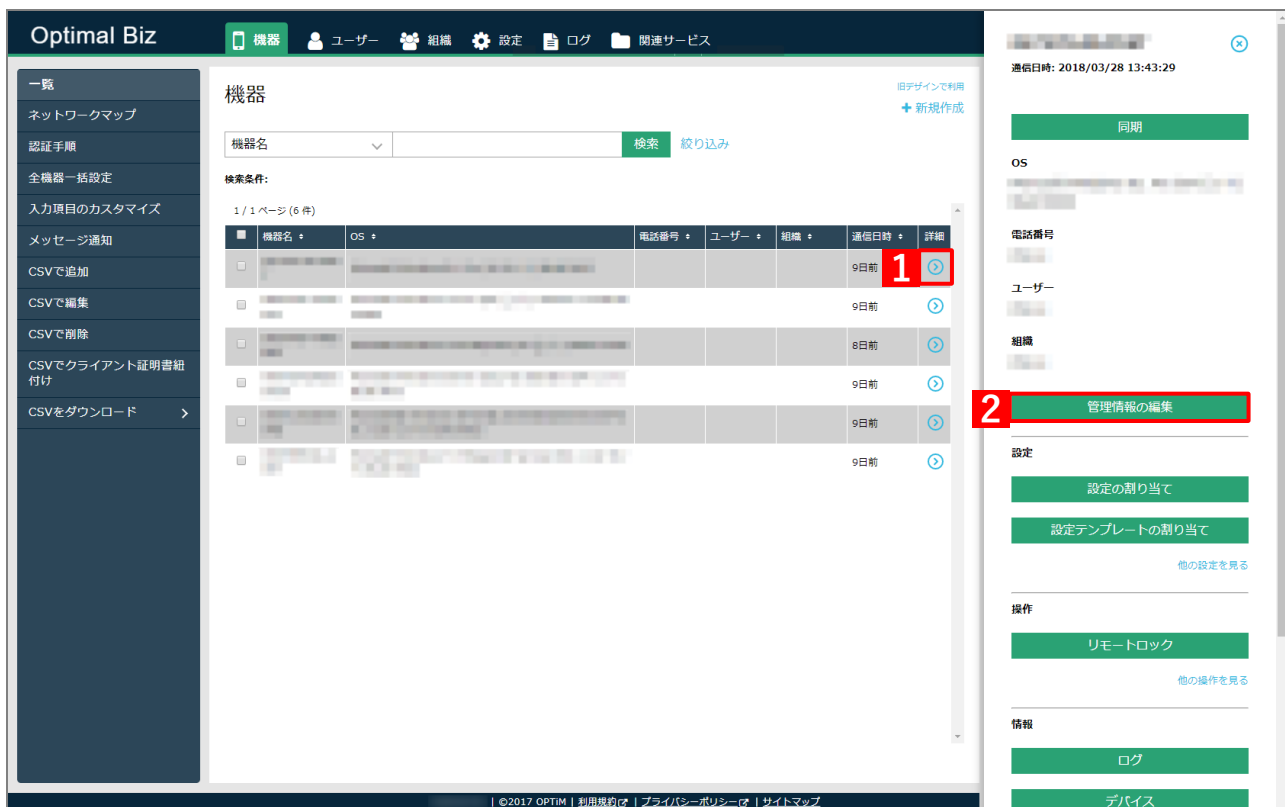


## 1.4.8 機器をユーザーに紐づけする（管理サイト）







### ◆操作アプリケーション：管理サイト

管理サイトで機器をユーザーに紐づけします。

- [1]** [機器] → [一覧] → 一覧からユーザーを紐づけたい機器の「詳細」にある  をクリックします。
- [2]** [管理情報の編集] をクリックします。



Optimal Biz 管理サイトの「機器」一覧画面のスクリーンショットです。画面の左側にはナビゲーションメニューがあり、「機器」が選択されています。中央には「機器」の一覧表が表示されており、各機器の「詳細」アイコン（右向き矢印）が赤い枠で「1」として強調されています。右側の詳細パネルには、「管理情報の編集」ボタンが赤い枠で「2」として強調されています。

機器名	OS	電話番号	ユーザー	組織	通信日時	詳細
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	9日前	
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	9日前	
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	8日前	
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	9日前	
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	9日前	
[機器名]	[OS]	[電話番号]	[ユーザー]	[組織]	9日前	



- 【3】 「所属」の「ユーザー」を選択します。
- 【4】 リストボックスから紐づけたいユーザーを選択します。
- 【5】 「保存」をクリックします。

## 管理情報

機器名

**3** 所属

ユーザー

**4**

組織

機器カスタム項目A

**5**

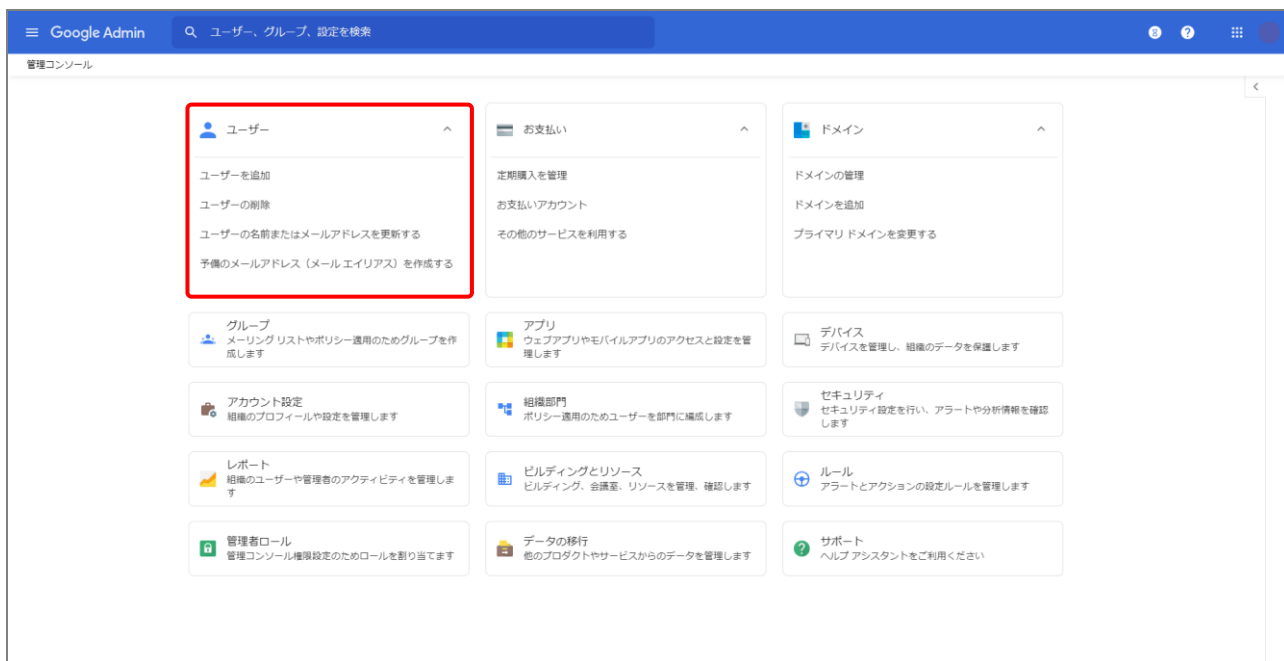
## 1.4.9 ユーザー種別を確認・変更する（Google 管理コンソール）

### ◆操作アプリケーション：Google 管理コンソール

管理サイトで作成したユーザーは、「停止中のユーザー」に作成される場合があるため、ユーザーの種類を確認します。「停止中のユーザー」に作成されていた場合は、「アクティブなユーザー」に変更します。変更を行わないと、該当ユーザーのアカウントは使用できません。

🔗 ログインには、Google Workspace 購入時に配布された情報を使用してください。

#### [1] Google 管理コンソールにログインし、[ユーザー] をクリックします。



#### [2] 「ユーザーの種類別」から「停止中のユーザー」を選択します。

#### [3] 該当のユーザーをクリックします。



**【4】** [開始手順] をクリックします。

ユーザー ・ 強制停止中のユーザー  
新規作成済み **開始手順**

**0 GB**  
使用されているメールの保存容量      -      自分がオーナーのドキュメント

**アカウント**  
プロフィール、セキュリティ、エイリアス、使用状況に関する統計情報を表示、管理します。

**2 個の G Suite サービスが有効です**  
アクティブな G Suite サービスを表示します。

**グループ (0)**  
グループ メンバーを追加、編集します。

**ライセンス管理**  
割り当てられているライセンスを確認します。

**もっと見る**

**[5]** 以下のどちらかを行うことで、アクティブなユーザーに変更できます。

## 《株式会社サービスにログインする》

- 画面に記載の (A) 「URL」 にログインし、該当ページの内容に従い、設定を行ってください。

## 《メールを送信する》

- (B) [メールを送信します] をクリックします。メールの受信内容に従い、設定を行ってください。

### 開始手順

セキュリティを強化し、迷惑行為や不正行為に対処するプロセスの一環として、Google ではユーザーに初回ログイン時に身元の確認を求めてから、アカウントへのログインを許可することがあります。これには携帯電話経由での身元確認が必要です。

ユーザー admin さんの携帯電話にパスコードが記載されている通知が届きます。このパスコードを入力することでログインできます。admin さんは、身元を確認するために、最初にウェブからログインしてください。

迷惑行為や不正行為の防止にご協力いただき、ありがとうございます。

(A) 株式会社 サービスにログイン:  
https://[redacted]  
[redacted]

ユーザー名  
[redacted]

パスワード  
\*\*\*\*\* [パスワードを表示](#)

印刷 (B) [メールを送信します](#)

## 1.5 ログイン方法

SaaS ID 連携を使用してのログインには、Federation サーバーのタイムアウトが存在します。3 分以内に該当アプリケーションまたはブラウザへログインしてください。

また、ログインに失敗した場合は、再度最初から手順に従ってログインを行ってください。

🔗 「Office 365 にログインする」 53 ページ

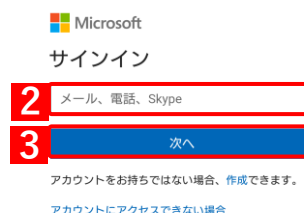
🔗 「Google Workspace にログインする」 61 ページ

### 1.5.1 Office 365 にログインする

#### 1.5.1.1 Android の場合

- 【1】** アプリまたはブラウザから Office 365 を起動します。
- 【2】** 管理サイトに登録されている「メールアドレス」を入力します。
- 【3】** [次へ] をタップします。

⇒管理サイトのログイン画面が表示されます。



- 【4】** 「ユーザーIDまたはメールアドレス」と「パスワード」を入力します。
- 【5】** [ログイン] をタップします。

⇒ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。

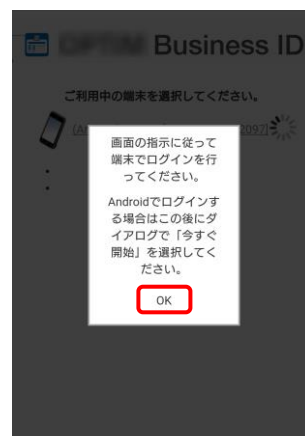
- ☑️管理サイトで、アクセス制御の設定がオンになっている場合は、機器の選択画面に遷移します。手順【6】から【8】に従い、ログインを行ってください。



- 【6】** ご使用の機器を選択してください。

- ☑️管理サイトで、アクセス制御の設定がオンになっている場合のみ表示されます。

**【7】** ダイアログを確認し、[OK] をタップします。



**【8】** [今すぐ開始] をタップします。

⇒ ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。



## 1.5.1.2 iOS の場合

- 【1】 アプリまたはブラウザーから Office 365 を起動します。  
 例として Word アプリを使用しています。
- 【2】 管理サイトに登録されている「メールアドレス」を入力します。
- 【3】 [次へ] をタップします。  
 ⇒管理サイトのログイン画面が表示されます。

## サインイン

Word で使用したいアカウントのメールアドレスまたは電話番号を入力します。

2 メールアドレスまたは電話番号

3 次へ

[プライバシーに関する声明](#)

- 【4】 「ユーザーID またはメールアドレス」と「パスワード」を入力します。
- 【5】 [ログイン] をタップします。

Business ID

ログインしてください。

企業コード

4 ユーザーIDまたはメールアドレス

パスワード

5 ログイン

日本語 English 简体中文 繁體中文

[プライバシーポリシー](#) [ヘルプ](#)

- 【6】 ご使用の機器を選択してください。  
 機器の選択画面が表示されない場合は、手順【10】へ進んでください。  
 管理サイトで、アクセス制御の設定がオンになっている場合のみ表示されます。

Business ID

ご利用中の端末を選択してください。

その他の候補端末

- 【7】 ダイアログを確認し、[OK] をタップします。

Business ID

ご利用中の端末を選択してください。

画面の指示に従って  
端末でログインを行  
ってください。

iOSでログインする  
場合はこの後に通知  
をタップしてくださ  
い。

OK

**【8】** 画面上部に表示される「通知」をタップします。




**【9】** [OK] をタップします。



**【10】** アプリまたはブラウザーから Office 365 に戻ります。

**【11】** [通知を有効にする] または [後で] をタップします。

 初回ログイン時のみ表示されます。





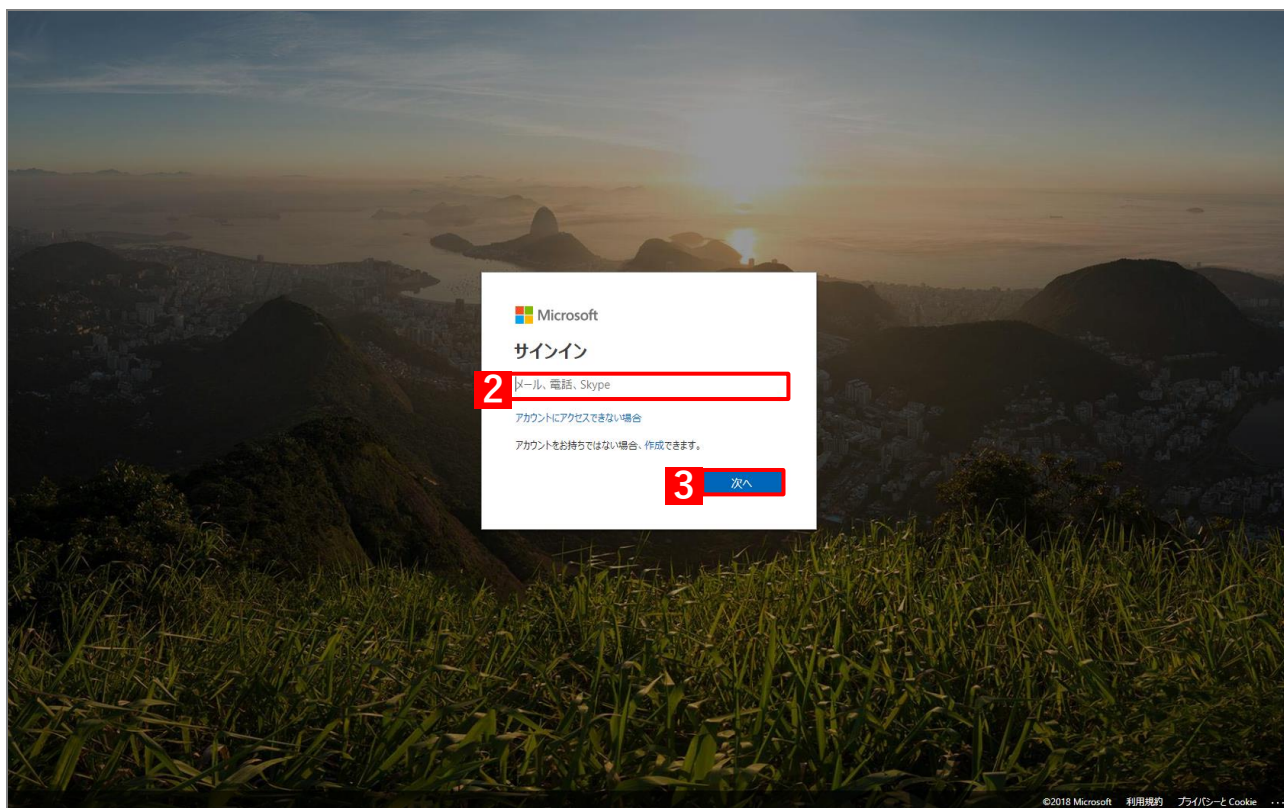
**【12】 [表示] をタップします。**

⇒ ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。



### 1.5.1.3 Windows の場合

- [1]** Office 365 のログイン画面を表示します。  
☞例として、ブラウザで Office 365 を使用しています。
- [2]** 「メールアドレス」を入力します。
- [3]** 「次へ」をクリックします。



**【4】 「ユーザーID またはメールアドレス」 を入力します。**

**【5】 [ログイン] をクリックします。**

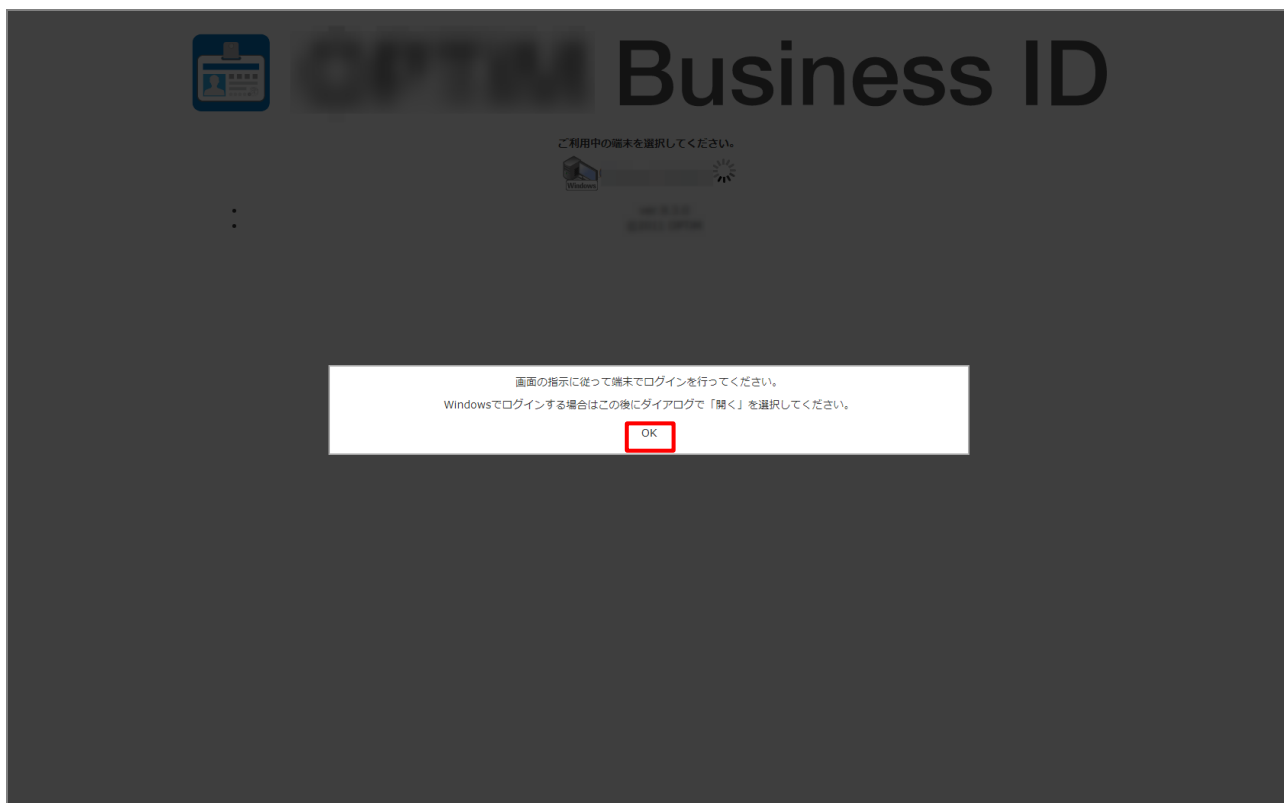
⇒ ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。

管理サイトで、アクセス制御の設定がオンになっている場合は、機器の選択画面に遷移します。手順【6】 から【8】 に従い、ログインを行ってください。

**【6】 ご使用の機器を選択してください。**

管理サイトで、アクセス制御の設定がオンになっている場合のみ表示されます。

**【7】** ダイアログを確認し、[OK] をクリックします。

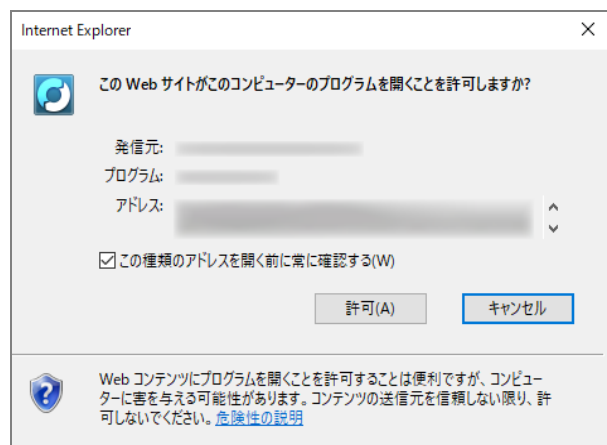
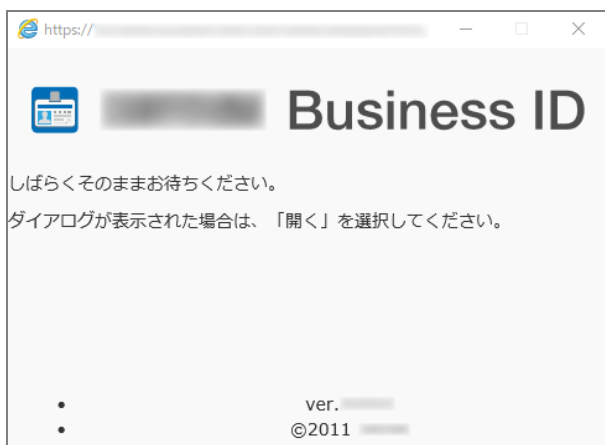


**【8】** [BizAuthReq.exe を開く] をクリックします。

⇒ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。



🔗 使用しているブラウザやアプリによっては、ログインするときに以下のような画面やダイアログが、表示されることがあります。



## 1.5.2 Google Workspace にログインする

### 1.5.2.1 Android の場合

- 【1】** アプリまたはブラウザから Google Workspace を起動します。  
☑例として、G mail アプリを使用しています。
- 【2】** 管理サイトに登録されている「メールアドレス」を入力します。
- 【3】** 「次へ」をタップします。

- 【4】** 「同意する」をタップします。  
⇒管理サイトのログイン画面が表示されます。

- 【5】** 「ユーザーIDまたはメールアドレス」と「パスワード」を入力します。
- 【6】** 「ログイン」をタップします。  
⇒ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。
- ☑管理サイトで、アクセス制御の設定がオンになっている場合は、機器の選択画面に遷移します。手順【7】から【9】に従い、ログインを行ってください。

Accounts

アカウントの追加

Google

ログインすると、お使いの端末を最大限に活用できます。 [ヘルプ](#)

2 メールアドレスまたは電話番号

または新しいアカウントを作成

3 次へ

Google アカウントは [このデバイスで管理されています](#) で管理されています。ログインを完了できるように、すぐにリダイレクトされます。

ログインすると、[プライバシー ポリシー](#) と [利用規約](#) に同意したことになります。

同意する

Business ID

ログインしてください。

企業コード

5 ユーザーIDまたはメールアドレス

パスワード

6 ログイン

ログイン状態を保持

日本語 English 简体中文 繁體中文

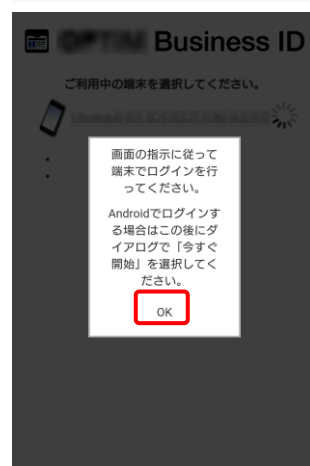
[利用規約](#)  
[プライバシーポリシー](#) [ヘルプ](#)

**【7】 ご使用の機器を選択してください。**

- ☑管理サイトで、アクセス制御の設定がオンになっている場合のみ表示されます。



**【8】 ダイアログを確認し、[OK] をタップします。**



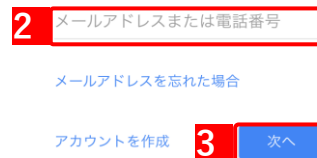
**【9】 [今すぐ開始] をタップします。**

- ⇒ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。

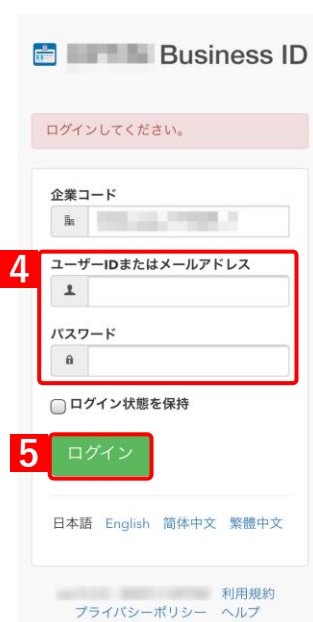


## 1.5.2.2 iOS の場合

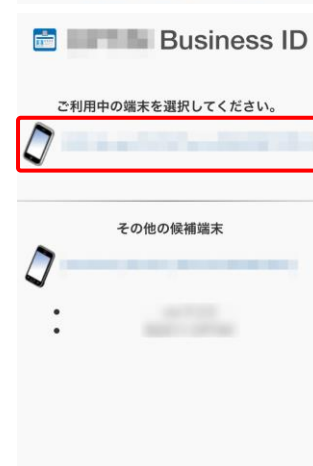
- 【1】** アプリまたはブラウザから Google Workspace を起動します。  
 例として Gmail アプリを使用しています。
- 【2】** 管理サイトに登録されている「メールアドレス」を入力します。
- 【3】** 「次へ」をタップします。  
 ⇒管理サイトのログイン画面が表示されます。



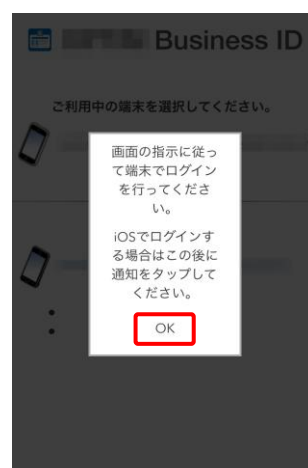
- 【4】** 「ユーザーID またはメールアドレス」と「パスワード」を入力します。
- 【5】** 「ログイン」をタップします。



- 【6】** ご使用の機器を選択してください。  
 機器の選択画面が表示されない場合は、手順【9】へ進んでください。  
 管理サイトで、アクセス制御の設定がオンになっている場合のみ表示されます。



**【7】** ダイアログを確認し、[OK] をタップします。



**【8】** 画面上部に表示される「通知」をタップします。




**【9】** [OK] をタップします。





**【10】** [許可しない] または [OK] をタップします。

 初回ログイン時のみ表示されます。



**【11】** [OK] をタップします。

⇒ ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。



### 1.5.2.3 Windows の場合


- 【1】** Google Workspace のログイン画面を表示します。  
例として、ブラウザで Gmail を使用しています。
- 【2】** 「メールアドレス」を入力します。
- 【3】** 「次へ」をクリックします。

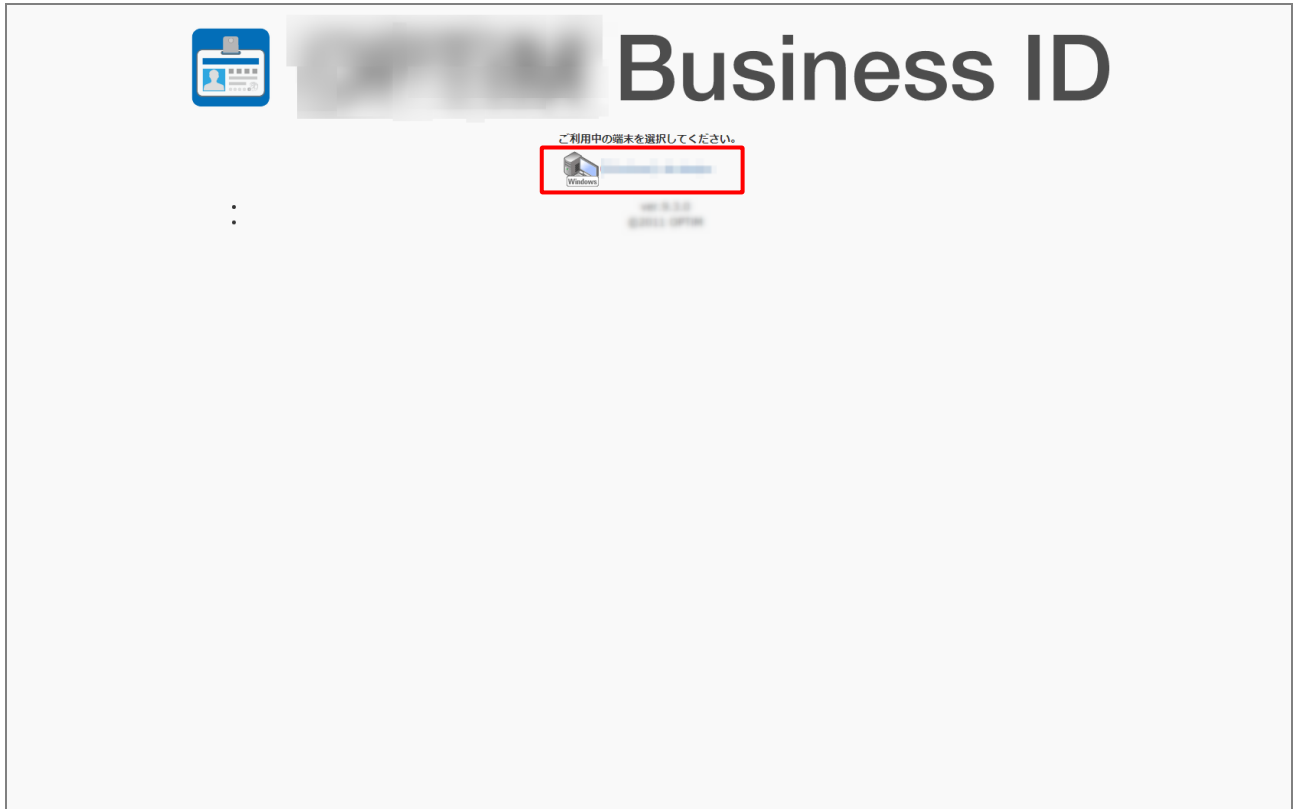
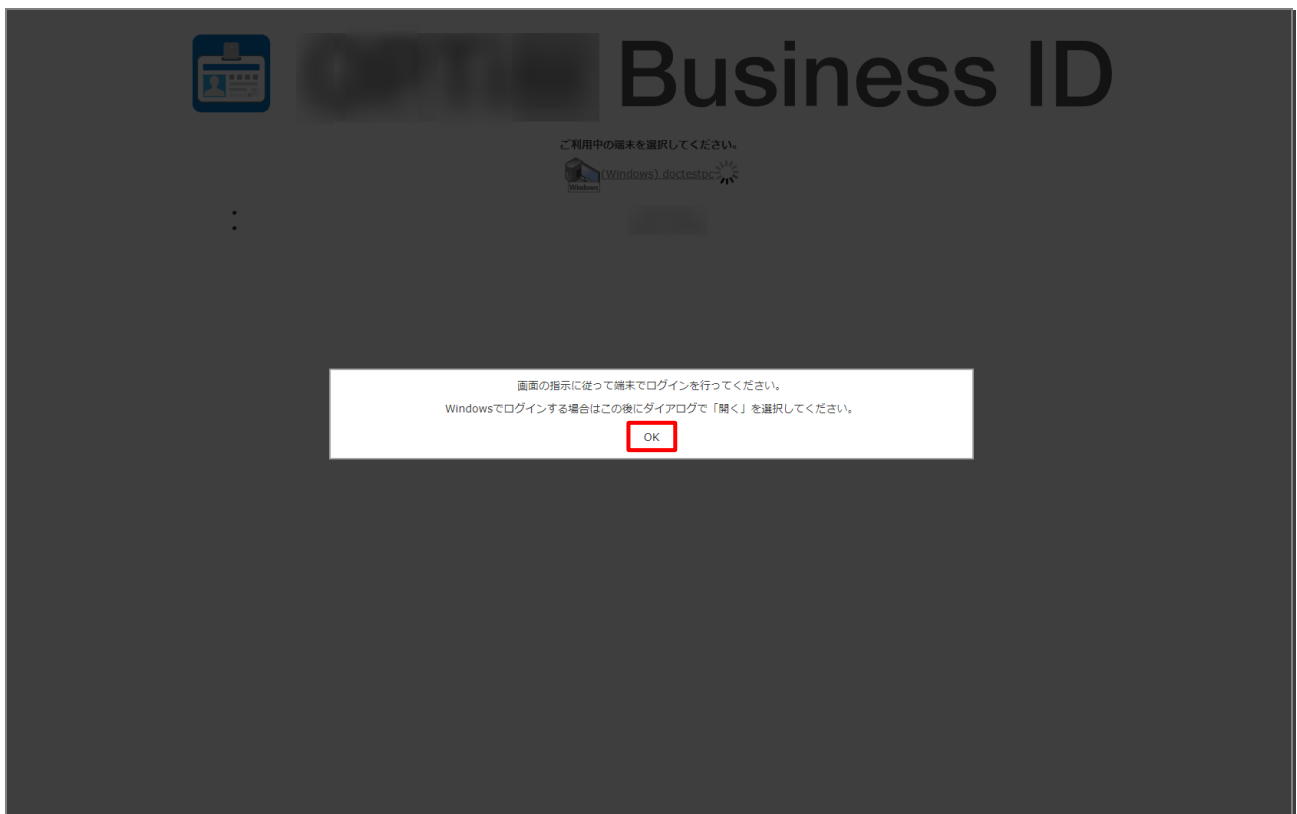


- 【4】** 「ユーザーID またはメールアドレス」を入力します。
- 【5】** 「ログイン」をクリックします。  
⇒ ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。
- 管理サイトで、アクセス制御の設定がオンになっている場合は、機器の選択画面に遷移します。手順【6】から【8】に従い、ログインを行ってください。



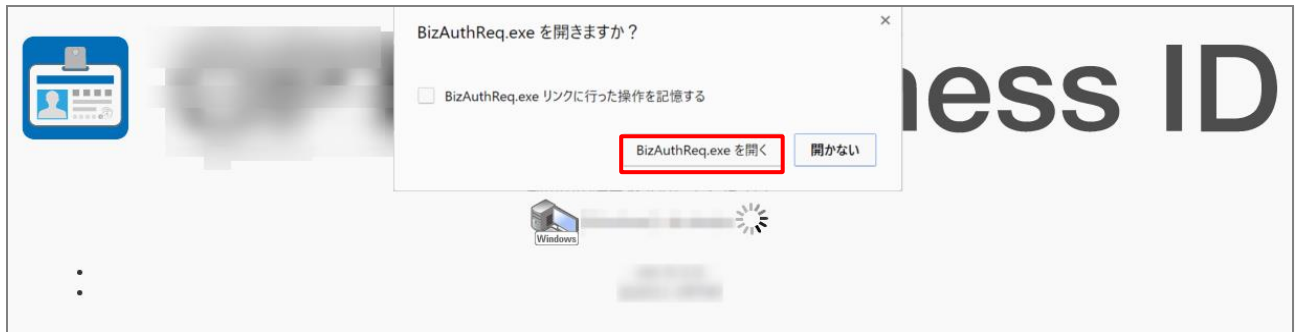
**【6】** ご使用の機器を選択してください。

 管理サイトで、アクセス制御の設定がオンになっている場合のみ表示されます。

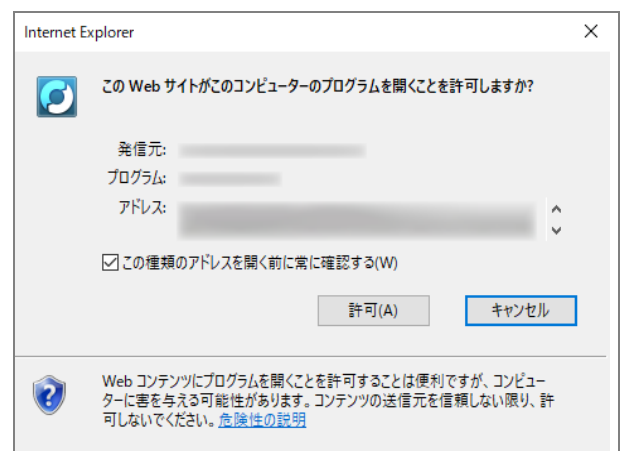
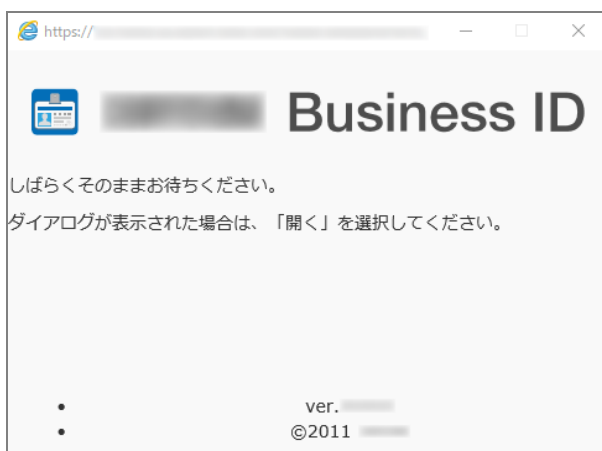
**【7】** ダイアログを確認し、[OK] をクリックします。

**【8】 [BizAuthReq.exe を開く] をクリックします。**

⇒ ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。



☑ 使用しているブラウザやアプリによっては、ログインするときに以下のような画面やダイアログが、表示されることがあります。

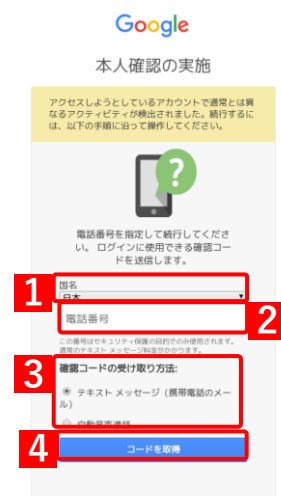


### 1.5.2.4 初回ログインの場合

Google Workspace の初回ログイン時には、本人確認が実施されます。

以下の手順に従って、本人確認を実施してください。

- 【1】 ご利用の電話番号の「国名」を選択してください。
- 【2】 「電話番号」を入力してください。
- 【3】 確認コードの「受け取り方法」を選択してください。
  - テキストメッセージを選択する場合は、SMS（ショートメッセージサービス）を利用できる端末をご用意ください。
- 【4】 「コードを取得」をタップします。



確認コードが届かない場合は、サポート設定の詳細をご覧ください。

- 【5】 取得した確認コード（数字）を入力します。
- 【6】 「確認」をタップします。



- 【7】 利用規約およびプライバシーポリシーを確認し、「同意する」をタップします。

⇒ ログインが完了し、アプリケーションのトップ画面に遷移します。



---

## 2 付録

以下の項目について説明しています。

項目	ページ
<a href="#">参考リンク集</a>	<a href="#">71</a>
<a href="#">注意事項</a>	<a href="#">71</a>

---

## 2.1 参考リンク集

---

### 2.1.1 Office 365

---


◆Office 365 ログインページ

 <https://portal.office.com/>


◆Microsoft Azure ログインページ

 <https://portal.azure.com/>

◆Microsoft Azure Module ヘルプページ

 <https://docs.microsoft.com/ja-jp/office365/enterprise/powershell/connect-to-office-365-powershell#step-1-install-required-software>

◆Office 365 Microsoft Azure Active Directory Module for Windows PowerShell 管理コマンドレット  
実行時に発生するエラー対処ページ

 <https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2669552/-the-term-cmdlet-name-is-not-recognized-error-when-you-try-to-run-azure-active-directory-for-windows-powershell-cmdlets>

### 2.1.2 Google Workspace

---

◆Google 管理コンソールログインページ

 <https://admin.google.com/>

◆Google APIs ログインページ

 <https://console.developers.google.com/>

---

## 2.2 注意事項

---

●アクセス制御の注意

Office 365 に SaaS ID 連携でログインしていた場合、ブラウザやアプリケーションにそのログイン情報が記憶されます。アクセス制御でログインを禁止されている状態でも、記憶された情報を元にログインできるようになります。端末を解除する場合などは、リモートワイプもあわせて行うようにしてください。